平成30年度

事 業 年 報

はじめに

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとと事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の平成30年度における事業内容の記録として作成したものであります。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 松 山 正 春

目 次

I	事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
П	役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ш	組織 (* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	3
	1 組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	2 職種別、組織別職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
IV	事業報告	
	1 保健部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(1) 住民健診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	1. 特定健診・後期高齢者健診 ・・・・・・・・・・・・・・	5
	2. 肝炎ウイルス検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	(2) 保健指導 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	(3) 一般健康診断 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	(4) 特殊健康診断・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 0
	(5) 胸部X線検診(結核検診・肺がん検診) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
	(6)胃がん検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5
	(7)子宮がん検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8
	(8) 乳がん検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 1
	(9) 大腸がん検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 4
	(10) 前立腺がん検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 7
	(11) 骨粗鬆症検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 9
	(12) 学校保健検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 0
	1. 尿検査 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	3 0
	2. 寄生虫検査	3 2
	3. 貧血検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 4
	4. 心臓検診 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 5
	5. 小児生活習慣病予防健診・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 6
	(13) 先天性代謝異常等検査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 8
	2 環境部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 O
	(1) 飲料水検査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2) 簡見再田水道給杏 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	4.0

(3)	浄化槽法	定検	查		*	٠	٠	•	٠	٠	•	٠	٠	٠	٠	•	٠	٠	٠	٠	٠	•	•	٠	•	•	4	4
(4)	岡山県浄	化槽	水質	管	理复	尾旅	包里	原鄉	引(2	差	ţ-	うく	人核	到	Ī	•	•	٠	•	•		٠	(*:	٠	•	*	4	6
(5)	産業排水	検査	•		•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	٠	٠	٠	٠	٠	•	٠	٠	•	ì	4	8
(6)	河川水検	査・				ě	٠	•	٠	٠	٠	•	•	٠	•	•	•	٠	•	•	٠	•	•	•	٠	*	5	0
(7)	食品検査				٠	•	٠	•	٠	•	٠	٠	×	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	2
(8)	腸内細菌	検査	等		•		((•))	(• ()	•	•	•	(•)	٠	*	٠	•	•	•	•;	٠	•	٠	•	•	•	•	5	4
(9)	その他の	検査			s .	•	٠	•	٠	٠	٠	٠		•	•	٠	٠	•	•	•	٠	٠	٠	•	•	•	5	5
3 精	度管理室	<u> </u>	•		•	•	•	•	•	•	•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	6
																											_	_
4 食	烏検査事	業・	•	•	9	•	٠	•	•	•	٠	٠	٠	•	•	٠	٠	٠	•	٠	•	•	•	•	•	•	5	8
																												_
	 属病院																										6	_
	外来状况																										6	_
	入院状況																										6	_
` '	リハビリ																										6	_
	先進の医																										6	3
, ,	安全・多																										6	3
(6)	地域連携	隻の推.	進	•	•		٠	•	•	*	٠	٠	(*)	•	٠	٠	٠	٠	٠	٠	٠	•	٠	٠	•	•	6	4
(7)	結核医療	連携	拠点	病	院(の扌	旨行	Ė	(•)	•	٠	•	()	٠	•	•:	(. .)	•	•	•	•	•	٠	٠	٠	•	6	4
(8)	指導・村	談・	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6	4
(9)	財団各部	阴門と	の道	連携	•	٠	•	٠	•	٠	•	٠	٠	•	•	•	٠	•	•	¥		•	*	٠		()	6	5
(10)	難病相談	・支・シ	援事	業	•	٠	•	•	٠	•	٠	•	•		٠	•	(•)		٠	•	(•)	٠	*	•:	•	(9)(6	5
6	部健康~	うくり	セン	ノタ		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4	٠	٠	(3 1)	6	6
(1)	健康增進	些部門	•			•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	(•)	•	*	*		3● 75	6	6
1	ヘルフ	メチェ	ック	の	状	兄		•	(*)		•	•:	•	٠		٠	٠	٠	•	•	٠	٠	•	•	٠	•	6	6
2	2. 施設自	由(フリ	J) 7	制	制壮	犬沙	己	•	•	•	٠	•	٠	•	٠	٠	•	•	٠	٠	•	•	٠	٠	6	8
3	3. お手軽	E教室	•				•	٠	•	•	٠	٠	•			٠		٠		•	•	•	•			::e6	6	9
4	. 健康	うくり	栄剤	を講	座	及(ゾタ	小 音	沿書	背自	币米	斗E	里都	数:	玄		٠	٠	:•	٠	, • :	•		•	٠	•	7	1
	5. リラク																										7	3
	5. 健康均																										7	4
	教育・研																										7	5
	. 派遣事																										7	5
	2. 図書の																										7	6
																											-	6
•	, 八五頃	D6	' 1 . I	ス円又	<u> </u>	/	1/1	× 1	H H	1.	_	=	<i>></i>	⊣ ⊢	. 29	T-M	or-										•	-

	•		7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 8 3 8 3
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•		7 7 7 7 7 7 7 7 8 3 8 3
• •	•		7 7 7 7 7 7 8 3 8 3
• •	•	•	7 7 7 7 8 3 8 3
	•	•	7 7 8 3 8 3
			8 3
	•	•	8 3
	6.3	2	_
		-	8 4
			8 4
	į į	÷	8 4
٠.	•	٠	8 4
	ti 1 ≘		8 5
			8 5
			8 5
(•) (•)			8 6
			8 7
			8 8
			8 9
•		• •	• • •

I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発 及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検查事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

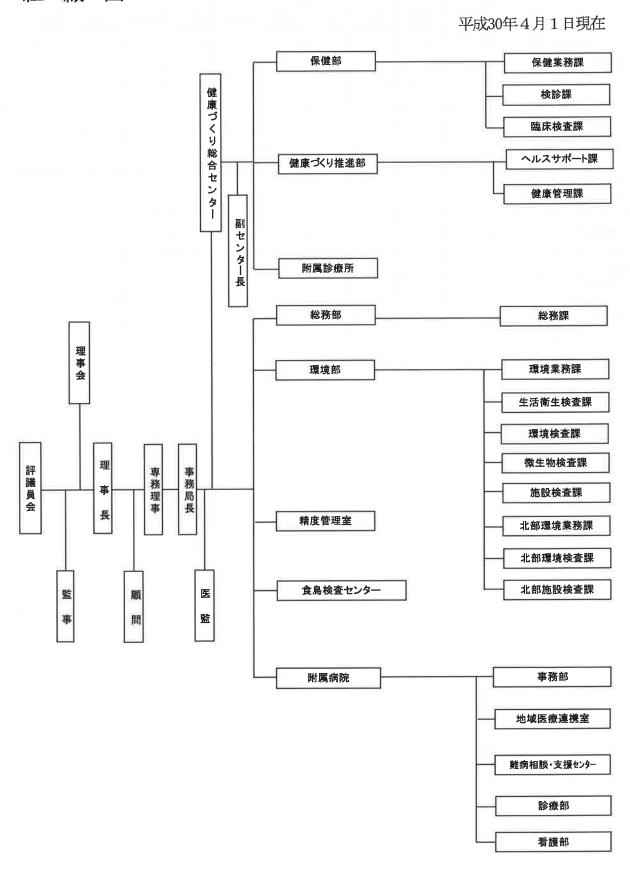
Ⅱ 役員名簿

平成30年4月1日現在

役職名		氏	名	ı	備考
評議員	荒	木	裕	人	岡山県保健福祉部長
II .	清	水	信	義	岡山県医師会副会長
11	難	波	義	夫	岡山県病院協会長
II .	Ξ	浦	寛	人	岡山市医師会長
11	薄	元	亮	<u> </u>	津山市医師会長
n	大	塚	愛	=	岡山大学医学部長
IJ	内	Щ		登	岡山県議会議員
"	福	永	仁	夫	川崎医科大学長
11	酒	井	昭	則	岡山県歯科医師会長
11	堀	部		徹	岡山県薬剤師会長
"	萩	原	誠	司	岡山県市長会長
II .	Щ	崎	親	男	岡山県町村会長
"	岡	崹	文	代	岡山県愛育委員連合会長
"	中	島	玲	子	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	石	川		紘	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	大	森	弘	介	岡山県健康づくり財団専務理事
理 事	阪	本	文	雄	山陽新聞社会事業団専務理事
11	岡	崹	邦	泰	日本乳がん検診学会名誉会員
"	森		惠	子	岡山県栄養士会長
11	宮	田	明	美	岡山県看護協会長
11	守	谷	欣	明	岡山県健康づくり財団名誉顧問
11	守	安	秀	徳	岡山県健康づくり財団環境部長
11	西	井	研	治	医監 (兼)岡山県健康づくり財団附属病院長
11	坪	田	典	之	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター保健部長
11	関		明	穂	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター健康づくり推進部長
監事	有	本	耕	並	弁護士
"	小	Jil	洋	_	公認会計士・税理士

Ⅲ 組織

1 組織図



2 職種別・組織別職員数

平成30年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	放射線 技師	臨床 検査技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・調理員	介護職	運動 指導員等	食鳥 検査員	合 計
総務部	15												15
保健部	38	3	25	13	21	2							102
環境部	18				1		60						79
食鳥検査センター	1						1					15	17
附属病院	12	5	43	1	1	2		2	12	12			90
健康づくり推進部	15	3	7	6	3				2		5		41
合 計	99	11	75	20	26	4	61	2	14	12	5	15	344

IV 事業報告

1 保健部

(1) 住民健診

1. 特定健診·後期高齢者健診

1) 健診概要

目的: 生活習慣病の予防

対象: 特定健診 : 医療保険加入者で、実施年度中に40~75歳になる者

後期高齢者健診: 76歳以上の者

補足)・対象年齢の誕生日以前等での振り分けは各市町によって異なる。

医療保険加入者:国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

2) 実施状況

13 市町から委託を受け、17,606 人の健診を実施し、前年度に比べ 2,874 人 (14.0%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(N)

区分		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	国保	12, 120	12, 346	11, 552	10, 943	8, 979
特定健診	他健保	1, 394	1, 595	4, 502	5, 446	4, 683
	その他	1, 575	2, 309	346	351	336
後期高齢者健診		3, 811	3, 616	3, 483	3, 740	3, 608
計		18, 900	19, 866	19, 883	20, 480	17, 606

② メタボリックシンドローム判定内訳 (国保、他健保)

(人)

ロハ	性別	受診者数		メタボリックシンドローム判定結果内訳									
区分	1生力1	又形日数	該	当	予何		非該当						
国保	男性	3, 864	1,003	26.0 %	626	16.2 %	2, 235	57.8 %					
国体	女性	5, 114	384	7.5 %	292	5.7 %	4, 438	86.8 %					
他健保	男性	166	45	27.1 %	31	18.7 %	90	54.2 %					
他健休	女性	4, 517	207	4.6 %	203	4.5 %	4, 107	90.9 %					
	男性	4, 030	1, 048	26.0 %	657	16.3 %	2, 325	57.7 %					
合計	女性	9, 631	591	6.1 %	495	5.1 %	8, 545	88.7 %					
	計	13, 661	1,639	12.0 %	1, 152	8.4 %	10, 870	79.6 %					

3) 健診方法

① 健診項目

・基本的な健診の項目

問診

身体計測

(身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし)

理学的所見

(身体診察)

血圧

(収縮期血圧、拡張期血圧)

血中脂質検査(中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール)

肝機能検査

(AST, ALT, γ -GT)

血糖検査 (空腹時血糖、ヘモグロビン A1c。いずれかの項目の実施で可)

尿検査

(尿糖、尿蛋白)

・詳細な健診の項目(医師の判断による追加項目)

貧血検査

(赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

心電図検査

眼底検査

- ② メタボリックシンドロームの判定基準
 - 必須条件

腹囲: 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

・以下のうち2つ以上が該当

血糖: 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上

脂質: 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満

血圧: 収縮期 130 mm Hg 以上、または 拡張期 85 mm Hg 以上

※ 脂質・血圧は、いずれかまたは両方

2. 肝炎ウイルス検査

1) 検査概要

目的: B型·C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため

(B型·C型肝炎の早期発見、早期治療)

対象: 当年度40歳になる者(節目検診)又は過去に受診したことがない者

2) 実施状況

12 市町から委託を受け実施した。

B型肝炎検査は、1,160 人の健診を実施し、前年度に比べ 310 人 (21.1%) の減少であった。

C型肝炎検査は、1,157 人の健診を実施し、前年度に比べ 314 人 (21.3%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

X	区分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
圧火がかか大	B型肝炎検査	2, 346	2, 568	1, 430	1, 470	1, 160
肝炎ウイルス検査	C型肝炎検査	2, 346	2, 570	1, 431	1, 471	1, 157

② 陽性率

B型肝炎検査: 陽性者数は1人で、陽性率は0.09%であった。 C型肝炎検査: 感染者数は0人で、感染率は0.00%であった。

3) 検査方法

B型肝炎検査: HBs抗原検査(定性)

C型肝炎検査: 問診、HCV抗体検査 (CLEIA法)、HCVコア蛋白測定によるHCV

抗原検査、HCV-RNA定量検査

(2) 保健指導

1) 指導概要

目的: 対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組み

を継続的に行うことができるよう支援する

対象: 健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者

ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極

的支援に階層化された者

2) 実施状況

地域では248人の保健指導を実施し、前年度に比べ34人(15.9%)の増加であった。 職域では1,660人の保健指導を実施し、前年度に比べ257人(18.3%)の増加であった。 全体では前年度に比べ291人(18.0%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	296	265	263	214	248
職域	1, 117	1, 502	1, 285	1, 403	1,660
計	1, 413	1, 767	1,548	1, 617	1, 908

② 年齡階層別実施状況

(V)

積極的	的支援	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~	計
451-411	男性	4	11	11	0	26
地域	女性	0	3	4	0	7
職域	男性	243	230	30	0	503
机火火	女性	162	77	18	0	257
計		409	321	63	0	793
動機付	け支援	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~	計
454 411	男性	8	4	69	43	124
地域	女性	5	6	47	33	91
職域	男性	195	212	70	23	500
11111111111111111111111111111111111111	女性	229	100	54	17	400
計		437	322	240	116	1, 115
その他は	R健指導	39歳以下	40~49歳	50~59歳	60歳~	計
	FF7 14					

その他は	R 健 指導	39歳以下	40~49歳	50~59歳	60歳~	計
職域	男性	63	0	1	0	64
収収	女性	41	0	3	1	45
計		104	0	4	1	109

3) 指導方法

期間:6ヵ月間

支援: 面接… 個別または8人以下のグループ

通信 … 手紙、メール、電話

(3) 一般健康診断

1) 健診概要

目的: 事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象: 事業所就業者

2) 実施状況

94,509人の健診を実施し、前年度に比べ2,352人(2.6%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
実施人員	64, 095	84, 823	91, 803	92, 157	94, 509

3) 健診方法

① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査② 自他覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白 ⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	④を除き特定業務従事者等は 6ヶ月以内に1回

(4) 特殊健康診断

1) 健診概要

目的: 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象: 有害業務従事者

2) 実施状況

10,629人の健診を実施し、前年度に比べ550人(5.5%)の増加であった。

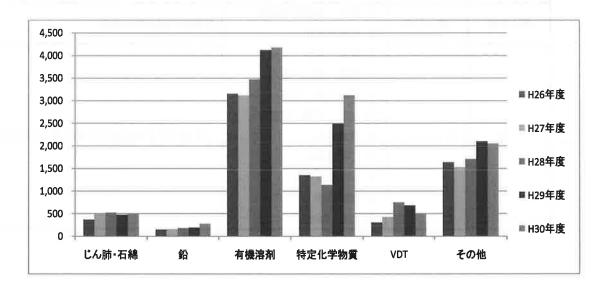
① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は 501 人、鉛健診は 277 人、有機溶剤健診は 4,179 人、特定化学物質健診は 3,133 人、VDT 健診は 495 人、その他健診は 2,055 人であった。

② 項目別受診者数の年次推移

(V)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
じん肺・石綿	372	502	525	479	501
鉛	151	158	182	197	277
有機溶剤	3, 159	3, 126	3, 478	4, 127	4, 179
特定化学物質	1, 353	1, 326	1, 143	2, 490	3, 122
VDT	309	427	753	684	495
その他	1, 641	1, 532	1, 713	2, 102	2, 055
計	6, 985	7, 071	7, 794	10, 079	10, 629



3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

(5) 胸部X線検診(結核検診・肺がん検診)

1) 検診概要

目的:「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下 対象:「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び 感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では49,473人の検診を実施し、前年度に比べ9,493人(16.1%)の減少であった。 職域では37,877人の検診を実施し、前年度に比べ1,835人(4.6%)の減少であった。 各種学校では19,786人の検診を実施し、前年度に比べ552人(2.7%)の減少であった。 全体では前年度に比べ11,880人(10.0%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(V)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	69, 512	66, 656	62, 482	58, 966	49, 473
職域	38, 459	46, 977	41, 560	39, 712	37, 877
各種学校	23, 205	23, 006	21, 164	20, 338	19, 786
計	131, 176	136, 639	125, 206	119, 016	107, 136

② 年齡階層別実施状況表

別表

③ 要精検率 (各種学校の読影のみ除く)

要精検者数は888人で、要精検率は1.0%であった。

③ 精検受診率(各種学校除く)

精検受診者数は606人で、精検受診率は68.2%であった。

④ がん発見率 (各種学校除く)

発見された人数は12人で、発見率は0.01%であった。

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん発見者数	24	25	27	25	12
がん発見率	0.02 %	0.02 %	0.03 %	0.03 %	0.01 %

3) 検診方法

① 検診項目

結核検診 : 胸部X線間接撮影 (100mm)

肺がん検診: 問診、胸部X線写真読影 (100mm)、喀痰細胞診 (問診で喫煙指数

600 以上の者または 6 ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに該当する

者)

② 判定方法

胸部疾患専門医師2名による二重読影を行う。 肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

③ 判定区分

異常なし: 所見なし(有所見を含む)

経過観察: 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検:病変の発見及びその疑いがある

別表 1 胸部 X線検診年齢階層別実施状況(地域)

			要精検	精検					精検結	果内訳				
区分	年齢	受診者数	者数	受診者数	肺がん	肺がん 疑い	悪性腫瘍	肺結核 要医療	肺結核 要観察	肺結核 治癒	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
	~39	5	0	0										
	40~44	258	0	0										
	45~49	327	2	1									1	
	50~54	323	1	0										
	55~59	392	4	3									2	1
男	60~64	912	14	10		1							-6	3
	65~69	2, 927	38	19		1							15	3
	70~74	4,511	87	64	3	5							50	6
	75~79	4, 105	95	69	3	5							51	10
	80~	4,014	153	105	1	9							75	20
	計	17,774	394	271	7	21	0	0	0	0	0	0	200	43
	~39	31	1	1									1	
	40~44	741	2	1		1								
	45~49	899	4	4									3	1
	50~54	1,084	5	2									2	
	55~59	1,601	5	2	1									1
女	60~64	2,842	28	16		1							10	5
	65~69	6,085	68	51		1			1				36	13
	70~74	7,566	88	69	1								53	15
	75~79	5, 879	100	77		3					1		57	16
	80~	4,971	112	88	3	3							57	25
	計	31, 699	413	311	5	9	0	0	1	0	1	0	219	76
ě	合計	49, 473	807	582	12	30	0	0	1	0	1	0	419	119

別表 2 胸部 X 線検診年齢階層別実施状況 (職域)

-			要精検	6610					精検結	果内訳				
男女	年齢	受診者数	者数	精検 受診者数	肺がん	肺がん 疑い	悪性職傷	肺結核 要医療	肺結核 要観察	肺結核 治癒	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
	~39	11, 315	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	40~44	2, 134	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	45~49	2, 309	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	50~54	1,747	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	55~59	1,391	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
H	60~64	1,276	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
<i>5</i> 3	65~69	838	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	70~74	381	3	0	0	0	0	0	0	0	0	.0	0	0
	75~79	135	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	80~	187	10	5	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2
	不明	430	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	22, 143	56	13	0	0	0	0	0	0	- 5	. 0	2	6
	~39	7, 156	2	0	0	0	0	0	0	0	0	- 0	0	0
	40~44	1,626	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	45~49	1,807	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	50~54	1, 457	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	55~59	1, 224	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
+-	60~64	997	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
从	65~69	472	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	70~74	214	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	75~79	87	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	80~	672	9	4	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0
	不明	22	1	0	0	0	.0	0	0	0	0	0	0	0
	計	15, 734	25	11	0	0	0	0	0_	1	5	1	1	3
	合計	37, 877	81	24	0	0	0	0	0	1	10	1	3	9

別表 3 胸部X線検診年齢階層別実施状況(各種学校)

			一次検査	結果内訳	
区分	受診者数	異常なし	経過観察	要精検	撮影のみ
高:1学年	6, 021	6,013		8	0
高:その他	270	270			0
特別支援学校	245	245			0
その他学校	13, 250	12, 025	0	19	1, 206
1	19, 786	18, 553	0	27	1, 206

別表 4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況(地域)

	A south			一步	、検査結果内	訳	
区分	年齢	受診者数	再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍 細胞疑い	悪性腫瘍 細胞あり
	~39						
	40~44	11		6			
	45~49	13		8			
	50~54	33		23			
	55~59	33		25			
男	60~64	86		76	1		
77	65~69	223		203	3		
	70~74	348	3	302	1		
	75~79	278	2	245			
	80~	224	2	190	3		
	不明	0	0	0	- 0	0	0
	計	1, 249	7	1,078	8	0	0
	~39						
	40~44	5		5			
	45~49	5		5			
	50~54	10		9			
	55~59	8		8			
女	60~64	9		9			
×	65~69	17	1	15	1		
	70~74	42		42			
	75~79	31		30	1		
	80~	28	1_	27			1
	不明						
	計	155	2	150	2	0	1
1	合計	1, 404	9	1, 228	10	0	1

別表 5 喀痰細胞診年齢階層別実施状況 (職域)

				一涉	、検査結果内	訳						
区分	年齢	受診者数	再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍 細胞疑い	悪性腫瘍 細胞あり					
	~39	2		2								
	40~44	2		2								
	45~49	4	1	3								
	50~54	3		3								
	55~59	5							5			
男	60~64	9		9								
73	65~69	2		2								
	70~74	1		1								
	75~79											
	80~	1		1								
	不明	0	0	0	0	0	C					
	計	29	- 1	28	0	0	C					
	~39											
	40~44											
	45~49	1		1								
	50~54	1		1								
	55~59	2		2								
女	60~64											
~	65~69	3	1	2								
	70~74											
	75~79											
	80~											
	不明	0	0	0	0	0	0					
	計	7	1	6	0	0	0					
í	合計	36	2	34	0	0	0					

(6) 胃がん検診

1)検診概要

目的: 胃がんの早期発見

対象: 原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では8,834人の検診を実施し、前年度に比べ3,542人(28.6%)の減少であった。 職域では6,401人の検診を実施し、前年度に比べ484人(7.0%)の減少であった。 全体では前年度に比べ4,026人(20.9%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	15, 548	16, 452	13, 833	12, 376	8, 834
職域	7, 050	7, 415	7, 257	6, 885	6, 401
計	22, 598	23, 867	21, 090	19, 261	15, 235

② 年齡階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は940人で、要精検率は6.2%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は686人で、精検受診率は73.0%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は13人で、発見率は0.09%であった。 内訳は男性11人、女性2人であった。

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん発見者数	14	30	19	25	13
がん発見率	0.06 %	0.13 %	0.09 %	0.13 %	0.09 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診、胃部X線検査(日本消化器集団検診学会間接8枚撮影法)

② 判定方法

専門医師による二重読影 (ダブルチェック)

③ 判定区分

異常なし: 所見なし(放置可を含む)

経過観察: 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検: 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表 1 胃がん検診年齢階層別実施状況(地域)

			metata IA	****						精検結	果内积					
区分	年齢	受診者數	要精検 者数	精検 受診者数	異常なし	胃がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	胃潰瘍	胃 ポリープ	陳旧性 胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸 潰瘍	陳旧性十二 指腸潰瘍	その他 疾病	不明
	~39	2														
	40~44	116	1													
1	45~49	114	7	5	1							4				
1	50~54	137	7	5						1		3			1	
1	55~59	143	7	4						2		2				
男	60~64	336	20	16	I	1				3	1	8			2	
	65~69	826	61	43	1	2			2	7	1	27			3	
	70~74	999	76	62	7					12	6	30		1	6	
	75~79	736	75	57	2	1		1	6	12	4	27			4	
	80~	632	56	49	3	4			2	5	3	22			10	
	Rf-	4, 041	310	241	15	8	0	1	10	42	15	123	0	1	26	0
	~39	3														
1 1	40~44	220	8	5								5				
. 3	45~49	206	4	4						1		2			. 1	1
1	50~54	236	7	7								6				
1 3	55~59	322	9	8					1	1		- 5			_1	
女	60~64	570	31	25	1				1	2	1	17			3	
1	65~69	967	42	35	2				1	5	1	25			1	
	70~74	978	58	54	2	2			1	8	1	29			11	
	75~79	731	46	38	6				1	6		20			5	
1	80~	560	36	28					2	3	1	15			7	
0	Bt-	4, 793	241	204	11	2	0	0	7	26	4	124	0	0	29	1
	合計	8, 834	551	445	26	10	0	1	17	68	19	247	0	1	55	1

別表 2 胃がん検診年齢階層別実施状況 (職域)

				44.4						精検結	果内釈					
区分	年齡	受診者數	要精検 者数	精検 受診者数	異常なし	胃がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	胃潰瘍	育 ポリープ	陳旧性 胃潰瘍	慢性腎炎	十二指腸 潰瘍	陳旧性十二 指腸潰瘍	その他 疾病	不明
-	~39	855	38	26	25				1	1		17			3	
1	40~44	839	48	29	28				1	2	1	14		1	5	
	45~49	917	54	32	29				1	7	2	17			1	
	50~54	679	49	31	29					3	1	16		2	6	
	55~59	530	47	28	26			1	2	1	3	13			5	
	60~64	421	38	25	24					2	2	17			3	
男	65~69	204	25	13	. 13	2	1			2		7			1	
	70~74	52	3	1	1										1	
	75~79	5														
	80~	1	1	1	1					1				1		
	不明															
	81-	4,503	303	186	176	2	1	1	5	19	9	101	0	3	25	0
	~39	277	17	8								6		1	1.	
	40~44	363	13	10						1		7			2	
	45~49	409	21	12	1					4		6			1	
	50~54	292	8	7						3		4				
	55~59	249	11	7	1					2		1			3	
,	60~64	209	12	- 8	1					3		3			1	
女	65~69	79	3	2						1		1				
	70~74	18	1	1							1					
	75~79	2														
	80~															
	不明															
	BH	1,898	86	55	3	0	0	0	0	14	1	28	0	I	8	0
	合計	6, 401	389	241	179	2	1	1	5	33	10	129	0	4	33	0

別表 3 胃がん検診年齢階層別実施状況(合計)

										精検結	果内訳					
区分	年齡	受診者数	要精検 者数	精検 受診者数	異常なし	胃がん	がん疑い	その他の 悪性臓瘍	門潰瘍	育 ポリープ	陳旧性 胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸 潰瘍	陳旧性十二 指腸潰瘍	その他 疾病	不明
	~39	857	38	26	25	0	0	0	1	1	0	17	0	0	3	0
1	40~44	955	49	29	28	0	0	0	1	2	1	14	.0	1	5	0
	45~49	1,031	61	37	30	0	0	0	1	7	2	21	0	Ō	1	-0
	50~54	816	56	36	29	0	0	0	0	4	1	19	0	2	7	0
	55~59	673	54	32	26	0	0	1	2	3	3	15	0	0	Б	0
	60~64	757	58	41	25	1	0	0	0	5	3	25	0	0	5	.0
男	65~69	1,030	86	56	14	4	-1	0	2	9	1	34	0	0	4	. 0
	70~74	1,051	79	63	8	0	0	0	0	12	6	30	0	1	7	0
	75~79	741	75	57	2	1	0	1	6	12	4	27	0	0	4	0
	80~	633	57	50	4	4	0	0	2	6	3	22	0	0	10	. 0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21	8, 544	613	427	191	10	1	2	15	61	24	224	0	4	51	0
_	~39	280	17	8	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	1	0
	40~44	583	21	15	0	0	0	0	0	1	0	12	0	0	2	0
	45~49	615	25	16	1	0	0	0	Ō	5	0	8	0	0	2	1
	50~54	528	15	14	0	0	0	0	0	3	0	10	0	0	0	0
	55~59	571	20	15	1	0	0	0	1	3	0	6	0	0	4	0
	60~64	779	43	33	2	0	0	0	ì	5	1	20	0	0	4	0
女	65~69	1,046	45	37	2	0	0	0	1	6	1	26	0	0	1	0
	70~74	996	59	55	2	2	0	0	1	8	2	29	٥	0	11	0
	75~79	733	46	38	6	0	0	Ō	ī	6	0	20	0	0	5	0
	80~	560	36	28	0	0	0	0	2	3	1	15	0	0	7	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	#F	6, 691	327	259	14	2	0	0	7	40	5	152	0	1	37	1
	合計	15, 235	940	686	205	12	1	2	22	101	29	376	0	Б	88	1

(7) 子宮がん検診

1) 検診概要

目的: 子宮頸がんの早期発見

対象: 原則として20歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 19,588 人の検診を実施し、前年度に比べ 3,208 人 (14.1%) の減少であった。 職域では 376 人の検診を実施し、前年度に比べ 42 人 (10.0%) の減少であった。 全体では前年度に比べ 3,250 人 (14.0%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	24, 658	24, 951	24, 264	22, 796	19, 588
職城	1, 279	1, 385	573	418	376
計	25, 937	26, 336	24, 837	23, 214	19, 964

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は121人で、要精検率は0.6%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は79人で、精検受診率は65.3%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は1人で、発見率は0.01%であった。

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん発見者数	- 5	3	2	7	1
がん発見率	0.02 %	0.01 %	0.01 %	0.03 %	0.01 %

3) 検診方法

① 検診項目

問診 (既往歴、家族歴等)、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングし、ASC-US 以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される 病理診断	従来のクラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	Ι, Π
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II — Ша
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	Ша、Шb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	Ша
		中等度異形成	Ша
HSIL	高度扁平上皮内病変	高度異形成	Ⅲ b
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	ш
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表 1 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況(地域)

年齢	受診者数	要精検者数	精検		精検結	果内訳	
11817	又砂有数	女們便有數	受診者数	異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
~19							
20~24	157	4					
25~29	265	9	5	2			3
30~34	608	14	11	4			7
35~39	892	14	9				9
40~44	1,568	23	14	5			9
45~49	1, 468	16	12	5			7
50~54	1, 278	7	6	2			4
55~59	1, 531	8	5	2			3
60~64	2, 112	6	5	4	1		
65~69	3, 301	5	3	2			1
70~74	3, 352	4	4	2			2
75 ~ 79	2, 042	3	2				2
80~	1,014	2	2				2
計	19, 588	115	78	28	1	0	49

別表 2 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況 (職域)

年齢	受診者数	要精検者数	精検		精検結	果内訳	
十四口	又砂有數	女相恢日数	受診者数	異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
~19							
20~24	23	1	1				1
25~29	28	1					
30~34	21						
35~39	40						
40~44	31	1					
45~49	63	2					
50~54	69						
55~59	60						
60~64	30	1					
65~69	9						
70~74	2						
75~79							
80~							
計	376	6	1	0	0	0	

別表3 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況(合計)

年齢	受診者数	要精検者数	精検		精検結	果内訳	
-1- -Ml	又必有数	女相恢有级	受診者数	異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
~19	0	0	0	0	0	0	0
20~24	180	5	1	0	0	0	1
25~29	293	10	5	2	0	0	3
30~34	629	14	11	4	0	0	7
35~39	932	14	9	0	0	0	9
40~44	1, 599	24	14	5	0	0	9
45~49	1,531	18	12	5	0	0	7
50~54	1, 347	7	6	2	0	0	4
55 ~ 59	1, 591	8	5	2	0	0	3
60~61	2, 142	7	5	4	1	0	0
65~69	3, 310	5	3	2	0	0	1
70~74	3, 354	4	4	2	0	0	2
75~79	2, 042	3	2	0	0	0	2
80~	1,014	2	2	0	0	0	2
計	19, 964	121	79	28	1	0	50

(8) 乳がん検診

1) 検診概要

目的: 乳がんの早期発見

対象: 岡山県の指針で30歳代は視触診単独検診を毎年実施、40歳以上は

マンモグラフィ併用検診を毎年実施 原則、地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では17,171人の検診を実施し、前年度に比べ453人(2.6%)の減少であった。 職域では479人の検診を実施し、前年度に比べ224人(31.9%)の減少であった。 全体では前年度に比べ677人(3.7%)の減少であった。

① 受診者数の年次推移

 (\mathcal{N})

区分	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	16, 367	17, 178	18, 407	19, 055	17, 624	17, 171
職域	999	1,092	1, 174	907	703	479
計	17, 366	18, 270	19, 581	19, 962	18, 327	17, 650

② 年齡階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は737人で、要精検率は4.2%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は584人で、精検受診率は79.2%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は30人で、発見率は0.17%であった。

区分	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん発見者数	24	24	34	30	41	30
がん発見率	0.14 %	0.13 %	0.17 %	0.15 %	0.22 %	0. 17%

3) 検診方法

① 検診項目

- ・問診、視触診(専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う)
- ・問診、視触診、マンモグラフィ(40歳代のみ、内外斜位方向と頭尾方向を加えた2方向)

② 判定方法

視触診: 専門医師による

マンモグ・ラフィ : マンモグ・ラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

③ 判定区分

• 視触診

異常なし: 今回の検診で異常は認められない者 経過観察: 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検: 今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

・マンモ併用

異常なし: 今回の検診で異常は認められない者(有所見を含む)

要精検: 疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表 1 乳がん年齢階層別実施状況(地域)

		要精検者	精検			精	検結果内認	7		
年齢	受診者数	数数	受診者数	異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
~29	2									
30~34	11									
35~39	25									
40~44	1, 621	113	94	38	0		22	9	22	3
45~49	1, 542	111	84	28	5		19	12	20	0
50~54	1, 330	44	37	15	1		8	2	11	0
55~59	1, 483	54	45	21	4		8	2	10	0
60~64	2, 029	79	64	33	4		10	7	9	1
65~69	3, 090	113	89	50	4		8	4	21	2
70~74	3, 114	113	93	50	5		12	3	21	2
75~79	1, 933	63	53	27	5		5	1	10	5
80~	991	27	21	12	2		1	1	5	0
不明										
計	17, 171	717	580	274	30	0	93	41	129	13

別表 2 乳がん年齢階層別実施状況 (職域)

		要精検者	特烩			精	検結果内認	尺		
年齢	受診者数	数	精検 受診者数	異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
~29	36	1								
30~34	5	0								
35~39	41	3	1					1		
40~44	41	3	0							
45~49	87	4	0							
50~54	83	2	0							
55~59	67	2	1	1						
60~64	44	2	0							
65~69	30	0	0							
70~74	29	3	2					1	1	
75~79	15	0								
80~	1	0								
不明										
計	479	20	4	1	0	0	0	2	1	

別表 3 乳がん年齢階層別実施状況(合計)

		要精検者	精検			精	検結果内認	Я		
年齢	受診者数	数数	受診者数	異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
~29	38									
30~34	16									
35~39	66			, in the second						
40~44	1, 662	116	94	38	0		22	9	22	3
45~49	1,629	115	84	28	5		19	12	20	
50~54	1, 413	46	37	15	1		8	2	11	
55~59	1,550	56	46	22	4		8	2	10	0
60~64	2,073	81	64	33	4		10	7	9	
65~69	3, 120	113	89	50	4		8	4	21	2
70~74	3, 143	116	95	50	5		12	4	22	2
75~79	1, 948	63	53	27	5		5	1	10	
80~	992	27	21	12			1	1	5	
不明										
計	17, 650	737	584	275	30	0	93	43	130	13

(9) 大腸がん検診

1) 検診概要

目的: 大腸がんの早期発見

対象: 原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 18,304 人の検診を実施し、前年度に比べ 2,047 人 (10.1%) の減少であった。 職域では 7,385 人の検診を実施し、前年度に比べ 602 人 (8.9%) の増加であった。 全体では前年度に比べ 1,445 人 (5.3%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	20, 259	22, 604	21, 294	20, 351	18, 304
職域	6, 360	7, 197	6, 566	6, 783	7, 385
計	26, 619	29, 801	27, 860	27, 134	25, 689

② 年齡階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は1,797人で、要精検率は7.0%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は1,207人で、精検受診率は67.2%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は19人で、0.07%であった。

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
25	39	33	23	19
0.09 %	0.13 %	0.12 %	0.08 %	0.07 %

- 3) 検診方法
- ① 検診項目

問診、検査(免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法)

② 判定区分

異常なし: 免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検: 免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表 1 大腸がん検診年齢階層別実施状況(地域)

				精検					脊検結果内部	?			
区分	年齢	受診者数	要精検者数	受診者数	異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
	~39	2											0
	40~44	176	7	4	3				1				
	45~49	197	12	10	1	1			4	2	2		
- 1	50~54	204	9	5					4			1	
- 1	55~59	220	14	11		1			8		1		1
男 [60~64	504	38	30	5	1			16	3	5		
1	65~69	1,315	111	71	6	1			44	7	9	2	2
- 1	70~74	1,648	169	136	13	4			92	12	14	1	
- 1	75~79	1, 281	129	97	10	3			64	10	6	4	
- [80~	1, 372	160	101	14	3			59	10	11	3	1
	計	6, 919	649	465	52	14	0	0	292	44	48	11	4
	~39	5											
- [40~44	548	39	19	5				8	2	3	1	
- 1	45~49	525	32	19	7				6	2	4		
- 1	50~54	541	33	18	6				11		1		
- [55~59	758	29	23	6				10	3	4		
女【	60~64	1,264	87	59	21				25	5	6	2	
- [65~69	2, 195	117	84	14	1			34	16	16	3	
[70~74	2, 233	122	95	18				38	16	20	1	2
- [75~79	1,713	146	120	26	2			57	17	14	3	1
1	80~	1,603	134	79	13				36	17	9	3	1
	計	11, 385	739	516	116	3	0	0	225	78	77	13	4
- 5	合計	18, 304	1, 388	981	168	17	0	0	517	122	125	24	8

別表 2 大腸がん検診年齢階層別実施状況 (職域)

				精検				*	青検結果内部	3			
区分	年齢	受診者数	要精検者数	受診者数	異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
	~39	854	40	23	14				4	1	4		
ı	40~44	874	51	20	5				8	2	1.7	4	
	45~49	923	44	25	4				8	4	6	2	1
1	50~54	746	44	21	3				13	1	2	2	
ı	55~59	531	33	18	2				9	2	4	1	
男	60~64	424	34	19		2			16	1			
23	65~69	219	16	9	2				7				
	70~74	78	4	1					1				
- 1	75~79	38	3	2					2				
- 1	80~	8	1										
1	不明												
1	計	4, 695	270	138	30	2	0	0	68	11	17	9	1
	~39	433	26	9	8							1	
I	40~44	426	19	12	3				3	1	4	1	
[45~49	511	26	17	5				4	1	4	3	
I	50~54	377	16	11	3				7			1	
ĺ	55~59	313	14	11	6				3		1		1
女	60~64	344	12	8	2				3	1	1	1	
~ [65~69	140	13	10	2				7		I		
- [70~74	87	5	4	1			-	3				
	75~79	37	3	2						1	1		
- [80~	22	5	4	2				1				1
[不明											- 1	
	計	2,690	139	88	32	0	0	0	31	4	12	7	2
	合計	7, 385	409	226	62	2	0	. 0	99	15	29	16	3

別表3 大腸がん検診年齢階層別実施状況(合計)

				精検				- 1	精検結果内斯	1			
区分	年齢	受診者数	要精検者数	受診者数	異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
	~39	856	40	23	14	0	0.	0	4	1	4	0	0
	40~44	1,050	58	24	8	0	0	. 0	9	2	-1	4	0
	45~49	1, 120	56	35	5	1	0	0	12	6	8	2	1
1	50~54	950	53	26	3	0	0	0	17	1	2	3	0
	55~59	751	47	29	2	- 1	0	0	17	2	5	1	1
男	60~64	928	72	49	5	3	0	0	32	4	5	0	0
77	65~69	1,534	127	80	8	1	0	0	51	7	9	2	2
	70~74	1,726	173	137	13	4	0	0	93	12	14	1	0
	75~79	1,319	132	99	10	3	0	0	66	10	6	4	0
	80~	1,380	161	101	14	3	0	0	59	10	11	3	1
	不明	6,919	649	465	52	14	0	0	292	44	48	11	4
	計	11,614	919	603	82	16	0	0	360	55	65	20	5
	~39	438	26	9	8	0	0	0	0	0	0	1	0
	40~44	974	58	31	8	0	0	0	11	3	7	2	0
	45~49	1,036	58	36	12	0	0	0	10	3	8	3	0
	50~54	918	49	29	9	0	0	0	18	0	1	1	Ô
- 1	55~59	1,071	43	34	12	0	0	0	13	3	Б	0	1
女	60~64	1,608	99	67	23	0	0	0	28	6	7	3	0
~ [65~69	2, 335	130	94	16	1	0	0	41	16	17	3	0
	70~74	2, 320	127	99	19	0	0	Ö	41	16	20	1	2
	75~79	1,750	149	122	26	2	0	0	57	18	15	3	1
. [80~	1, 625	139	83	15	0	0	0	37	17	9	3	2
	不明	11, 385	739	516	116	3	0	0	225	78	77	13	4
	計	14, 075	878	604	148	3	0	0	256	82	89	20	6
	合計	25, 689	1, 797	1, 207	230	19	0	0	616	137	154	40	11

(10) 前立腺がん検診

1) 検診概要

目的: 前立腺がんの早期発見

対象: 原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

2) 実施状況

地域では 5,201 人の検診を実施し、前年度に比べ 850 人 (14.0%) の減少であった。 職域では 716 人の検診を実施し、前年度に比べ 241 人 (50.7%) の増加であった。全体 では前年度に比べ 609 人 (9.3%) の減少であった。

① 受診者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
地域	6, 203	6, 516	6, 167	6,051	5, 201
職域	370	514	377	475	716
計	6, 573	7, 030	6, 544	6, 526	5, 917

② 年齡階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は336人で、要精検率は5.7%であった。

⑤ 検受診率

精検受診者数は227人で、精検受診率は67.6%であった。

⑥ がん発見率

発見された人数は25人で、発見率は0.42%であった。

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん発見者数	26	40	29	25	25
がん発見率	0.40 %	0.57 %	0.44 %	0.38 %	0.42 %

3) 検診方法

① 検診項目: 問診、前立腺特異抗原検査(CLEIA 法)

② 判定区分: PSA の基準値を 4.0ng/ml とし、4.0 以下を異常なし、4.1 以上を要精検と

判定

別表 1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況(地域)

		要精検者	精検				精検結	果内訳			
年齢	受診者数	数数	受診者数	異常なし	がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
~39											
40~44	67	67									
45~49	55	55									
50~54	170	170									
55~59	186	181	5	4				1			
60~64	442	424	18	1	1	3		3			
65~69	1, 160	1, 113	47	10	2	6		13			1
70~74	1, 372	1, 291	81	11	8	8		23		1	3
75~79	984	911	73	7	7	4		26	4	2	3
80~	765	672	93	8	7	2,4		25	2	1	1
計	5, 201	4, 884	317	41	25	45	0	91	6	4	8

別表 2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況 (職域)

		要精検者	精検				精検結	果内訳			
年齢	受診者数	数	受診者数	異常なし	がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
~39	41										
40~44	73										
45~49	70										
50~54	171	3	1			1					
55~59	170	4	1					1			
60~64	111	5	3					2		1	
65~69	60	5	2			1		1			
70~74	16	2									
75~79	3										
80~	1										
計	716	19	7	0	0	2	0	4	0	1	0

別表3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況(合計)

		要精検者	精検				精検結	果内訳			
年齢	受診者数	数	受診者数	異常なし	がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
~39	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40~44	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45~49	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50~54	341	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0
55~59	356	9	6	4	0	0	0	2	0	0	0
60~64	553	23	11	1	1	3	0	5	0	1	0
65~69	1, 220	52	34	10	2	7	0	14	0	0	1
70~74	1, 388	83	54	- 11	8	8	0	23	0	1	3
75~79	987	73	53	7	7	4	0	26	4	2	3
80~	766	93	68	8	7	24	0	25	2	1	1
計	5, 917	336	227	41	25	47	0	95	6	5	8

(11) 骨粗鬆症検診

1)検診概要

目的: 骨粗鬆症の予防

対象: 地域住民、事業所就業者、学生

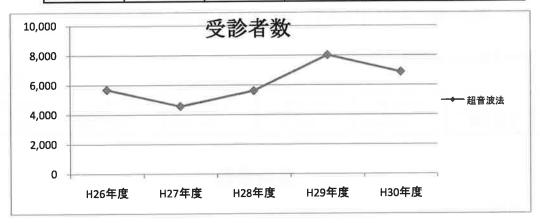
2) 実施状況

6,871人の検診を実施し、前年度に比べ1,141人(14.3%)の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
超音波法	5, 691	4, 567	5, 613	8, 012	6, 871



3) 検診方法

① 検診項目

問診

・超音波法: 足のかかとに超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を

測定

② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値 (YAM 値) と照合し医師による最終判定を行う

4) 判定基準値(成人)

性別	年齢	YAM値に対する割合			
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検	
女性	59歳以下	90%以上	90%未満	80%未満	
			80%以上		
	60歳以上	90%以上	90%未満	70%未満	
			70%以上	10/0/(114)	
男性	全年齢	90%以上	90%未満	75%未満	
			75%以上		

(12) 学校保健検査

1. 尿検査

1) 検査概要

目的: 腎臓病·糖尿病等早期発見

対象: 学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

2) 実施状況

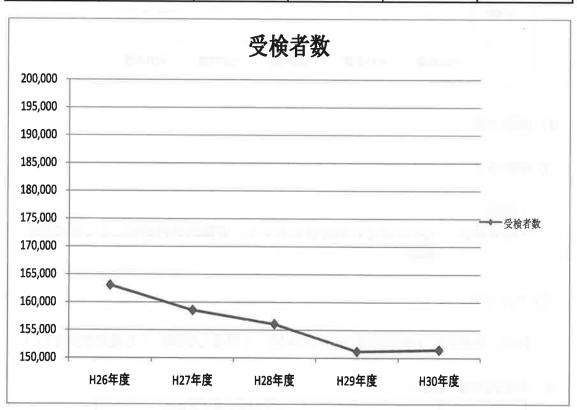
151,458人の検査を実施し、前年度に比べ263人(0.2%)の減少であった。

第1回検尿の陽性者は4,788人で、陽性率は3.2%であった。 第2回検尿の陽性者は1,165人で、陽性率は28.9%であった。

① 受検者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受検者数	163, 082	158, 571	156, 092	151, 195	151, 458



② 検査実績

				第1回模	尿					第2回検	尿		
対象	性別		and the second	陽性率	項目	1別陽性者	数	1077, 1004, 11C 1004	陽性者数	陽性率	項	目別陽性者	数
		受診者数	陽性者数	(%)	糖	蛋白	潜血	受診者数	肠性有蚁	(%)	糖	蛋白	潜血
	男	8,054	71	0.88	12	40	20	40	17	42,50	1	11	8
幼稚園 保育園	女	7,702	100	1. 30	6	53	42	67	27	40.30	1	16	19
жны	計	15, 756	171	1. 09	18	93	62	107	44	41. 12	2	27	27
	男	39, 017	396	1, 01	37	266	104	343	112	32, 65	9	77	52
小学校	女	37, 218	868	2, 33	34	532	335	754	232	30, 77	3	159	123
計	計	76, 235	1, 264	1.66	71	798	439	1, 097	344	31. 36	12	236	175
	男	19, 191	1,036	5. 40	34	942	73	943	265	28. 10	4	239	57
中学校	女	17,709	1, 124	6. 35	27	577	592	979	243	24. 82	2	211	71
	計	36,900	2, 160	5. 85	61	1,519	665	1, 922	508	26, 43	6	450	128
	男	8,056	462	5. 73	23	418	33	385	107	27, 79	5	96	19
高等学校	女	8, 215	424	5, 16	15	267	162	349	107	30, 66	2	101	26
	計	16, 271	886	5. 45	38	685	195	734	214	29. 16	7	197	45
	男	1, 445	62	4. 29	6	55	5	30	5	16. 67	0	5	0
その他の学校	女	2, 984	110	3. 69	6	88	17	60	17	28. 33	0	17	0
WTK.	計	4, 429	172	3, 88	12	143	22	90	22	24, 44	0	22	0
	男	1,238	78	6. 30	10	63	12	48	19	39. 58	0	19	3
特別支援 学校	女	629	57	9, 06	4	43	13	35	14	40, 00	1	12	5
7-10	計	1,867	135	7. 23	14	106	25	83	33	39. 76	1	31	8
	男	77, 001	2, 105	2. 73	122	1,784	247	1, 789	525	29. 35	19	447	139
合計	女	74, 457	2, 683	3, 60	92	1,560	1, 161	2, 244	640	28, 52	9	516	244
	計	151, 458	4, 788	3, 16	214	3, 344	1, 408	4, 033	1, 165	28, 89	28	963	383

3) 検査方法

第1回検尿:蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置 (US3300) を用いて定性検査を 実施する。

蛋白(±)以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。

第2回検尿:第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。 蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

2. 寄生虫検査

1) 検査概要

目的: 学校保健安全法に基づく寄生虫の保卵者の発見

対象: 幼児、児童、生徒等

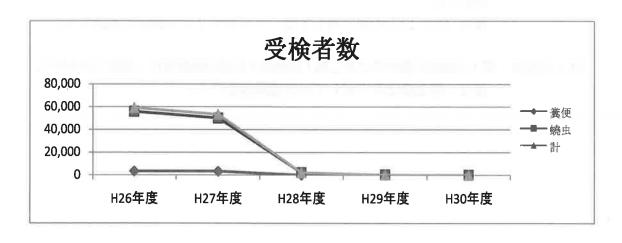
2) 実施状況

糞便検査は学校保健安全法の改正が施行され、寄生虫検査が必須項目から外れた影響のため、33人の検査を実施し、前年度と比べ0人(00.00%)の同人数であった。 糞便検査の保卵者は0人で、 陽性率は0.00%であった。

① 受検者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
糞便	3, 368	3, 311	33	33	33
蟯虫	55, 890	50, 162	2, 142	191	0
計	59, 258	53, 473	2, 175	224	33



② 検査実績

区分		粪便			蟯虫	
区力	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	33	0	0.00	0	0	0.00
幼稚園	0	0	0.00	0	0	0.00
小学校	0	0	0.00	0	0	0.00
特別支援学校	0	0	0.00	0	0	0.00
計	33	0	0.00	0	0	0.00

3) 検査方法

・セロファンテープ肛囲検査法(2回法): 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。

夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝 セロテープの粘着部に付着させ、これを

2日間 (2回) 行い、顕微鏡下で虫卵の有無を

鏡検する。

・セロファン厚層塗抹法 : 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡

下で虫卵の有無を鏡検する。

3. 貧血検査

1) 検査概要

目的: 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見

対象: 児童、生徒等

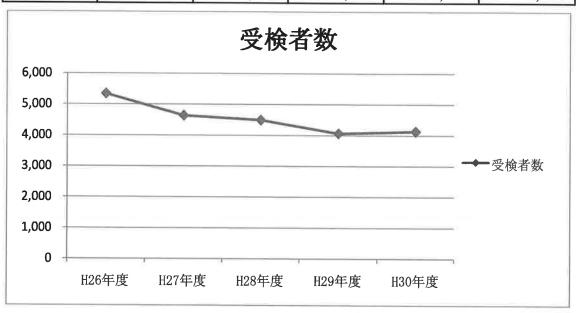
2) 実施状況

4,131人の検査を実施し、前年度に比べ66人(1.6%)の増加であった。

① 受検者数の年次推移

(N)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受検者数	5, 344	4, 638	4, 494	4, 065	4, 131



② 検査実績

区分	性別	RBC(赤血	1球数)	Hb(ヘモグロビン) Ht(ヘマ			- クリット)	
	工力は	受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外	
中学校	男	106	11	106	10	106	6	
170	女	190	15	190	23	190	20	
高校	男	1,440	319	1, 440	115	1, 440	135	
IRI/IX	女	2, 395	357	2, 395	364	2, 395	346	
計		4, 131	702	4, 131	512	4, 131	507	

3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) で RBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

4. 心臓検診

1) 検診概要

目的: 心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象: 学校保健安全法に基づく小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、

高等学校1年生及びその他の学年

2) 実施状況

22,786 人の検診を実施し、前年度に比べ727 人 (3.1%) の減少であった。 有所見率は2.25%であった (医師会審査判読分は除く)。

① 受診者数の年次推移

(人)

							~ ~
区分	H26年	度	H27年度	H28年度	H2	9年度	H30年度
受診者数	25	5, 156	24, 062	23, 8	329	23, 513	22, 78
26,000			受診	者数			
24.000		\rightarrow \right	-	-	→		─◆ 受診者数
22.000			4			_	
I	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		

② 検診実績

	77 - A - F 164.	判定						
区分	受診者数	正常	有所見	有所見率				
小学校	5, 982	5, 878	104	1.74				
中学校	5, 802	5, 685	117	2. 02				
高校、大学	6, 357	6, 195	162	2. 55				
特別支援学校	450	415	35	7. 78				
計	18, 591	18, 173	418	2. 25				

※ 医師会審査判読分(4,195人)を除く

3) 検診方法

心臓検診票と省略 4 誘導心電図+2 点心音図を実施。一部の学校では標準 12 誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析(一次判読)後、一次有所見者と検診票有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読を実施し最終判定を行う。

5. 小児生活習慣病予防健診

1) 健診概要

目的: 生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象: 小学校4年生と中学校1年生の生徒(1市のみ実施)

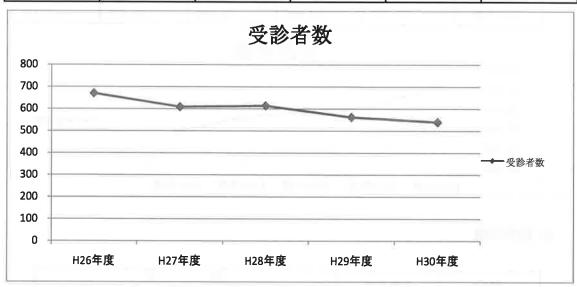
2) 実施状況:

540 人の健診を実施し、前年度に比べ22 人 (3.9%) の減少であった。 また、判定結果で何らかの管理を要する生徒は129 人 (23.9%) であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受診者数	670	609	614	562	540



② 健診実績

								管理	区分				
	区分		受診者数	要医学的管理(I)		要経過衡	要経過観察(Ⅱ)		要指導 (Ⅲ)		更 (IV)	正常(N)	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
		男	124	3	2.4	6	4.8	23	18.5	59	47.6	33	26, 6
小学校	4年生	女	158	3	1.9	9	5. 7	32	20.3	75	47.5	39	24.7
		計	282	6	2.1	15	5. 3	55	19.5	134	47.5	72	25. 5
		男	137	4	2. 9	7	5.1	11	8.0	80	58.4	35	25.5
中学校	1年生	女	121	1	0.8	8	6.6	22	18, 2	67	55. 4	23	19.0
		計	258	5	1.9	15	5.8	33	12.8	147	57.0	58	22. 5
		男	261	7	2.7	13	5. 0	34	13.0	139	53. 3	68	26. 1
合	計	女	279	4	1.4	17	6.1	54	19.4	142	50.9	62	22. 2
		計	540	11	2. 0	30	5.6	88	16.3	281	52, 0	130	24.1

3) 健診方法

① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票(家族歴、糖尿病の有無)、身体計測(肥満度の計算)、血中脂質検査、血圧測定

② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその 判定の組合せで5段階の総合判定を行う。

総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導 (管理)区分を決定する。

管理区分	内容		
I	要医学的管理		
II	要経過観察		
Ш	要指導		
IV	管理不要		
N	正常		

(13) 先天性代謝異常等検査

1) 検査概要

目的: 先天性代謝異常症等の早期発見

対象: 新生児 (原則として保護者の検査希望)

2) 実施状況

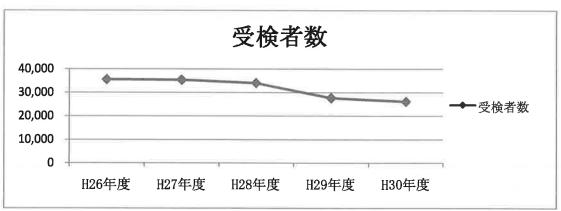
平成11年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成18年度より高知県、平成20年度より鳥取県から委託を受け、平成21年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。また平成24年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の6疾患から19疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。平成25年度からは島根県より3項目の委託を受けた。

26,131 人 (初回検体数:24,753 人、再採血による再検査数:1,378 人) の検査を 実施し、前年度に比べ1,521 人 (5.5%) の減少であった。 確定患児は23 人 (0.09%) であった。

① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
受検者数	35, 543	35, 357	33, 996	27, 652	26, 131



② 検査実績

対象疾患	検査総数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症		406 (1.55%)	50 (0.19%)	20 (0.08%)
先天性副腎過形成症	26, 131	270 (1.03%)	28 (0.11%)	3 (0.01%)
ガラクトース血症		56 (0.21%)	5 (0.02%)	0 (0.00%)
アミノ酸代謝異常症		14 (0.05%)	4 (0.02%)	1 (0.00%)
有機酸代謝異常症	25, 866	40 (0.15%)	5 (0.02%)	1 (0.00%)
脂肪酸代謝異常症		22 (0.08%)	9 (0.03%)	0 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		570 (2.18%)		

3) 検査方法

出生から4~6日目に、新生児の踵から4スポットの血液をろ紙に採血する。 よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。 先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症はELISA 法で検査。 アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス 法で検査する。

2 環境部

(1) 飲料水検査

1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認

対象・・・自治体、事業所、建築物管理者、貯水槽清掃業者及び個人

2) 実施状況

10,315件検査を受託し、前年度と比較し418件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
11, 236	11, 239	11, 307	11, 228	10, 250	9, 861	9, 897	10, 315

※集計方法の変更により29年度件数を9,806件から9,897件に変更

② 平成30年度の検査実績

(件)

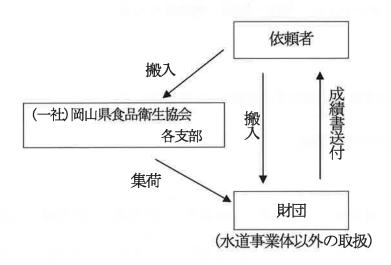
<u> </u>		(117
業務分類	検 査 種 別	件数
	基準項目	602
	省略不可項目	664
	簡易項目	2, 371
水道事業	水質管理目標設定項目	168
小坦尹未	農薬類	837
	クリプトスポリジウム	578
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,651
	簡易項目(学校関連)	262
	16項目	206
ビル管理関係	11項目	135
	消毒副生項目	186
食品衛生関連	食品製造用水	117
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3, 625

3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を 測定する。

4) 検査システム

検体の搬入は、依頼者が直接財団に持参するか、(一社) 岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が集荷する。水道事業体については職員が現地訪問により採取し、搬入後、理化学的検査と生物学的検査の部門別に検査を行い、検査成績書を発行する。



5)登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

(2) 簡易専用水道検査

1)検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保 対象・・・マンション・学校・病院・事務所ビル等

2) 実施状況

2,206 検査を受託し、前年度と比較し31 件増加した。

① 受託検査数の年度別推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
2, 127	2, 104	2, 118	2, 125	2, 111	2, 027	2, 175	2, 206

② 平成30年度の検査実績

(件)

簡易専	用水道	小規模	600 (d.)ML	
現場検査	書類検査	貯水槽水道他	総件数	
1,786 260		160	2, 206	

③ 平成30年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全 体
28. 8%	29. 9%	28. 9%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
44.0%	43. 0%	38. 2%	36. 4%	33. 3%	30. 9%	31. 3%	28. 9%

3) 検査方法

水道法、施行規則、厚生労働省告示、岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱に係る指導指針

4) 検査システム

検査実施については、設置者又は設置者の委託を受けた管理者等からの依頼により検査を 行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

水道法第34条2の第2項に基づく指定検査機関として昭和54年10月から検査を行っているが、同法の改正により平成16年3月31日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

(3) 浄化槽法定検査

1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水による公共用水域の水質の保全

対象・・・自治体、浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

7条検査870件、11条検査49,770件を合わせて50,640件の検査を受託し、前年度と比較し227件の増加であった。

① 法定検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
50, 638	50, 591	50, 325	50, 705	50, 489	50, 516	50, 413	50, 640

② 7条検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
1, 269	1, 118	1, 062	1, 201	1,041	904	852	870

③ 11 条検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
49, 369	49, 473	49, 263	49, 504	49, 448	49, 612	49, 561	49, 770

④ 平成30年度の検査判定内訳

(件)

判 定	7条検査	11 条検査	みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適正	656	35, 348	9, 693	25, 655
概ね適正	208	13, 683	3, 079	10, 604
不適正	6	739	436	303
総件数	870	49, 770	13, 208	36, 562

3) 検査方法

浄化槽法、施行規則、環境省告示、岡山県及び岡山市要綱

4)検査システム

○7条検査(設置後検査)

浄化槽設置者(又は施工業者)は、浄化槽設置前に設置票、7条検査依頼書に検査料金を 添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口に提出する。

提出された書類、検査料金は後日検査機関に送付され、7条検査の実施計画を立てる。 検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について8,000円(非課税)と定めている。

○11条検査(年1回定期検査)

浄化槽設置者(管理者)は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、 法定検査実施後に検査機関に支払われる。

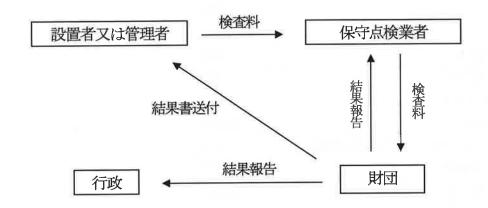
検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について5,700円(非課税)と定めている。

○検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者(管理者)に検査結果書 を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽並びに未保守浄化槽については、関係行政機関、 関係団体に報告し改善指導を要請している。

また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



5) 指定検査機関

昭和 61 年 4 月に浄化槽法第 57 条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として 指定を受け検査を開始した。

(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽放流水の水質状況確認、及び浄化槽の 浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

6,282 件検査を受託し、前年度より129 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
7, 324	7, 066	6, 702	6, 694	6, 349	6, 354	6, 411	6, 282

② 検査実績

(件)

30 年度	機能検査	放流水検査
総検査項目数	607	5, 675

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pН	5, 975
BOD	5, 459
COD	3, 553
SS	3, 198
ノルマルヘキサン抽出物質	554
全窒素	2, 817
全りん	2, 829
塩化物イオン	4, 372
透視度	4, 372
人腸菌群数	2, 108
外観	5, 845
臭気	4, 273

3) 検査方法

衛浄第34条、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目 を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、対象施設の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始した。

(5) 産業排水検査

1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認対象・・・自治体、事業所、ホテル、老健施設等

2) 実施状況

2,604 件検査を受託し、前年度より88 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
2, 550	2, 969	2, 251	2, 211	2, 142	2, 634	2, 516	2, 604

② 検査実績

(件)

		\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
30 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	14, 441	997

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pН	1, 590
BOD	1,652
COD	1, 976
SS	1, 485
MLSS	37
ノルマルヘキサン抽出物質	1, 429
全窒素	1, 716
全りん	1, 699
塩素イオン	190
カドミウム	127
鉛	152
六価クロム	132
シアン化合物	92
有機リン	86
ヒ素	127
総水銀	125
アルキル水銀	67
PCB	68
六価クロム溶出試験	70
大腸菌群数	931

3) 検査方法

IIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4)検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果 書を送付する。

5)登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

(6) 河川水検査

1) 検査概要

目的・・・河川、海域及び湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保 対象・・・自治体、事業所等

2) 実施状況

1,064 件検査を受託し、前年度より23 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
1, 617	1, 847	1, 512	1, 567	1, 473	1, 152	1, 041	1,064

② 検査実績

(件)

		(117
30 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	12, 924	1, 440

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pН	2, 039
BOD	1, 359
COD	1, 451
DO	1, 999
SS	1, 624
ノルマルヘキサン抽出物質	297
全窒素	1, 098
全りん	954
塩素イオン	624
カドミウム	137
鉛	157
六価クロム	124
シアン化合物	131
ヒ素	283
総水銀	137
アルキル水銀	116
PCB	125
農薬(ゴルフ場等)	269
大腸菌群数	1, 180
大腸菌数	252

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

(7) 食品検査

1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止

対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

2) 実施状況

8,168 件検査を受託し、前年度と比較し368 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
衛生検査	5, 828	5, 763	5, 410	6, 414	6, 731	6, 643	7, 800	8, 168
輸入食品 自主検査等	48	68	57	43	56	32	26	33

② 検査実績

(件)

30 年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目		
総検査項目数	3, 662	18, 609		

③ 主な項目の検査数

(件)

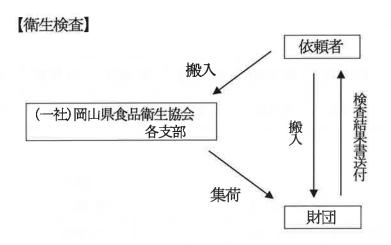
検 査 項 目	衛生検査	輸入食品自主検査等
栄養成分等検査	1, 579	12
添加物等検査	293	28
重金属類の検査	686	
農薬等検査	75	
器具容器包装の検査	205	4
異物検査	212	
清涼飲料水・ミネラルウォーター	97	
細菌数	4, 651	
大腸菌群	4, 431	
サルモネラ	1, 617	
黄色ブドウ球菌	3, 138	
腸炎ビブリオ	512	
腸管出血性大腸菌	269	
発育しうる微生物	12	8
ノロウイルス	471	

3) 検査方法

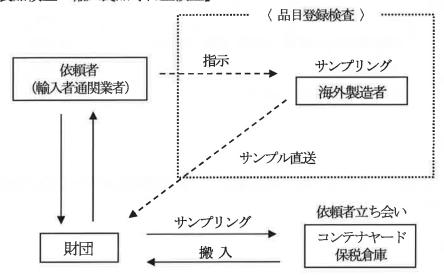
食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査 実施標準作業書」等に基づき行う。

4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社) 岡山県食品衛生協会の各 支部へ搬入したものを職員が集荷する。また、輸入食品等自主検査等は、登録検査員が現場 に出向きサンプルを採取し、搬入後、理化学的検査と細菌学的検査の検査を行い、検査結果 書を送付する。



【製品検査・輸入食品等自主検査】



5) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和63年3月10日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の 改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平 成21年2月27日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成21年6月に 食品衛生法第26条3項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始した。

(8) 腸内細菌検査等

1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止

対象・・・食品製造業者及び給食事業所等

2) 実施状況

10,123 件検査を受託し、前年度より2,138 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30年度
10, 507	10, 244	9, 033	8, 742	8, 523	7, 934	7, 985	10, 123

② 主な項目の検査数

(件)

		(11)
	検 査 項 目	件数
	赤痢・腸チフス・パラチフス	8, 980
 腸内細菌	サルモネラ	9, 986
1万万円	腸炎ビブリオ	121
	腸管出血性大腸菌(0157、026を含む)	8, 870
砂場の砂	犬猫回虫卵	137
4少 勿 V 入4少	砂場の細菌 (E. coli)	45

3) 検査方法

食の安全を確保するための微生物協議会の「食品関連従事者の腸管系病原菌保菌者検査マニュアル」に基づき行う。

4)検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社) 岡山県食品衛生協会の 各支部へ搬入したものを職員が回収、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

(9) その他の検査

1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止

対象・・・学校、温泉施設等

2) 実施状況

2,326 件検査を受託し、前年度より99 件増加した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
1, 294	1, 316	2, 403	1,874	2, 387	2, 217	2, 227	2, 326

② 主な項目の検査数

(件)

	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
検査項目	件数
プール水検査(化学・細菌)	222
プール水検査 (トリハロメタン)	477
温泉検査	31
室内の化学物質検査	1
浴槽水検査	420
レジオネラ属菌検査	1, 103

3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

4)検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを職員が回収、あるいは職員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

5)登録検査機関

岡山県知事登録温泉分析機関

3 精度管理室

1) 環境部における IS09001 の運用状況

環境部河川水・排水検査部門は、顧客サービスの向上と品質マネジメントシステムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に (一財) 日本品質保証機構 (JQA) から ISO9001 の認証を取得した。

年1回の定期審査、3年毎の更新審査を受け、認証を維持しており、平成29年10月にISO9001:2015へ移行した。

なお、計画的に年2回の内部監査を実施し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで品質マネジメントシステムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を事務局長とし、品質管理責任者(環境部長)を中心に品質管理体制の強化及び品質管理の継続的改善に努めているが、 精度管理室はその事務局の役割を担っている。

精 度 管 理 室 ISO 事務局 環境業務課 業務プロセス 環境檢査課 経 専 環 品 河川水・排水検査プロセス 質 務 管 境 生活衛生検査課 営 理 理 責 部 河川水・排水検査プロセス 任 者 者 長 微生物検査課 事 経 河川水・排水検査プロセス 営 務 者 北部環境業務課 局 代 北部業務プロセス 理 長 北部環境検査課

平成 30 年度の ISO9001 対象部門の体制

北部河川水・排水検査プロセス

3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部飲料水検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 20 条第 3 項に基づく登録検査機関として登録を受け、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした(公社)日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範(水道 GLP)の認定を取得している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、水道 GLP 品質管理マニュアルに従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内 部・外部精度管理調査やマネジメントレビューを行うなど検査精度の維持 向上に努めている。更に、定期的な点検で、業務が適正に行われているか 監視している。

平成30年度には、登録検査機関登録更新、(公社)日本水道協会によるサーベーランスを受けた。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して最高の評価を受けている。

4) 簡易専用水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部簡易専用水道検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 34 条の 2 第 2 項に基づく登録検査機関として登録を受けており、検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、その信頼性確保部門として、簡易専用水道業務規定に 従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内 部監査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めて いる。

5) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部食品検査(理化学的検査区分及び細菌学的検査区分)は、平成 16年2月より食品衛生法第4条第1項に基づく登録検査機関として登録 を受け、試験検査結果の信頼性を確保するシステムとしてGLP体制を整備 している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、登録検査機関業務規程に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。更に定期的な点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年中国四国厚生局による立入検査がおこなわれているが、平成30年度は登録検査機関登録更新や登録検査機関業務規程の変更認可を受けた。

6) HACCP (危害分析重要管理点) 導入支援の取り組み状況

食品衛生法改正(平成30年6月)により、全ての食品等事業者を対象に HACCP による衛生管理が制度化されることとなり、国による食品の安全性のさらなる向上が推し進められている。当財団では、外部講師による研修会の開催や研修参加による資質向上を通じ精度管理手法を活かした事業者等の支援を行うなど技術や知識の提供等に努めている。

7) 品質管理や精度管理の手法を財団全体の業務への取入れの取組状況 外部講師による研修会を 2 回開催するなど、職員の意識啓発等に努めて いる。

4 食鳥検査事業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、岡山県知事の指定検査機関として、県内の大規模食鳥処理場 5 施設に、14 名の検査員(獣医師)を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)をはじめ各種鶏病等の検査の実施により、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位:千羽)

年度区分	平成29年度	平成30年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	16, 910	17, 572	103. 9

1) 検査概要

目的・・・疾病罹患食鳥肉を排除し、食鳥肉に起因する衛生上の危害の発生を防止する。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場(年間30万羽を超えて処理する施設)5施設。

(内訳:ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設)

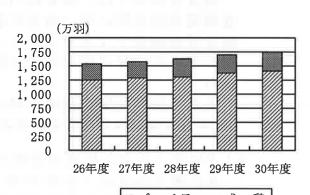
2) 実施状況

17,572,020 羽の検査を実施した。

内訳はブロイラー14,031,134 羽 (前年度比 102.1%)、成鶏 3,540,886 羽 (前年度比 111.7%) であった。

① 検査羽数の推移

		(FK)
ブロイラー	成 鶏	合 計
12, 430, 314	2, 889, 068	15, 319, 382
12, 795, 799	2, 926, 467	15, 722, 266
13, 038, 166	3, 144, 599	16, 182, 765
13, 739, 362	3, 170, 583	16, 909, 945
14, 031, 134	3, 540, 886	17, 572, 020
	12, 430, 314 12, 795, 799 13, 038, 166 13, 739, 362	12, 430, 314 2, 889, 068 12, 795, 799 2, 926, 467 13, 038, 166 3, 144, 599 13, 739, 362 3, 170, 583



☑ブロイラー ■成 鶏

② 検査成績

(平成30年度)

		松木西口	廃棄区分				
		検査項目	禁	此	全部廃棄	一部廃	棄
	ウ	高病原性鳥インフルエンザ					
ш	1	鳥インフルエンザ					
ш	ル	鶏痘					
	ス	伝染性気管支炎					
H	•	伝染性喉頭気管炎					
ш	ク	伝染性ファブリキウス嚢病	_				
ш	ラ	ニューカッスル病					
П	ラミジ	鶏白血病					
	ジ	封入体肝炎					
	ア	マレック病			1		_
	類	その他					_
	725						_
l		鶏マイコプラズマ病		207	11 706		_
ı		大腸菌症		367	11, 786		_
H	細	伝染性コリーザ			4		
	菌	サルモネラ病			1		
疾	症	鶏結核病					
		ブドウ球菌症		6	44		
		その他					
病		毒血病					
ı		膿毒症					
ı	1	敗血症		6	67		
別		豚丹毒菌病					
		ロイコチトゾーン病					
		真菌症					
羽		原虫症 (トキソ除)					
	そ	寄生虫病					
	`	変性	1,	343	7, 839	32, 51	۱5
数	りの	尿酸塩沈着症					
		水腫			23	3, 29	98
	他	腹水症	8.	073	28, 583		
	""	出血		12	2, 748	42, 08	38
	の	炎症		147	6, 263	474, 62	_
		萎縮			8		58
	疾	腫瘍		2	3, 921	5, 78	_
	~	臓器の異常・色形臭等			3, 321		32
	病				J	, ·	,,,
1	""	異常体温			14		
		黄疸 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /		2	680	16, 08	20
1		外傷	-		000	10,00	פנ
		中毒諸症	00	OF 4	17 /10		
1		削痩・発育不良		854	17, 418		-
		放血不良	<u>l,</u>	375	5, 536		-
		湯漬過度			1, 165		_
_		その他			21, 781		2.0
		合 計	35,	187	107, 881	574, 68	39
		Н Н			717, 757		

3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員(獣医師)が各処理場の従業員である食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類し処理される。



高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の検査は、疑わしい場合に簡易検査キットを使用して検査する。

5) 法律上の位置づけ

岡山県知事の指定検査機関である。(平成29年度より国から権限移譲)

5 附属病院

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病 床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に 取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医 療機関からの患者紹介に対応している。

また、財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、 がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指 導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派 遣も行っている。

(1) 外来状況

1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組ん でいる。

なお、健康診断事業を併設施設へ移行したため、健診受診者は減少となった。

診療時間:平 日 9:00~12:00 13:30~17:00

土曜日 9:00~12:00 (健康診断は行っていない)

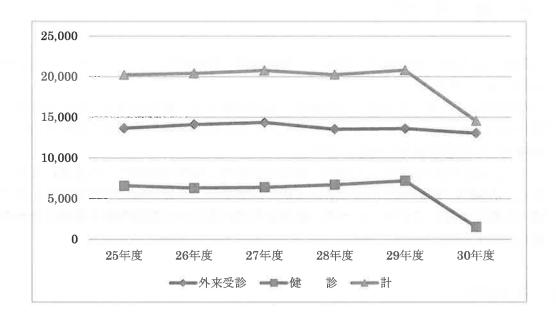
2) 状況

① 年度別外来受診・健診の状況

(V)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
外来受診	13, 652	14, 112	14, 366	13, 539	13, 612	13, 045
健 診	6, 584	6, 304	6, 400	6, 715	7, 189	1, 513
計	20, 236	20, 416	20, 766	20, 254	20, 801	14. 558

② 外来患者年度推移



(2) 入院状況

1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかよう看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

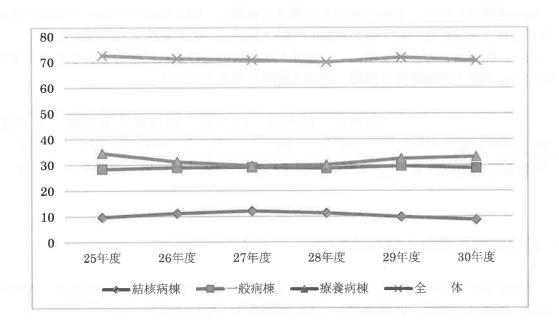
病	棟	結核46床	(内休止26床)	一般40床	療養40床
看護	体制	2交代制			

2) 状況

① 年度別入院患者の状況 (1日当たりの患者数)

						(
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
結核病棟	9. 7	11. 2	12. 1	11.3	9.8	8. 7
一般病棟	28. 4	29. 0	29. 1	28. 7	29. 6	28.8
療養病棟	34. 6	31. 3	29. 7	30. 1	32. 5	33. 2
全 体	72. 7	71.5	70. 9	70. 1	71. 9	70. 7

② 入院患者年度推移



(3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを 高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の 指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

(4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MR I を活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすくて美味しいソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

(6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22 年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

(件)

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
退院支援計画書作成件数	106	100	71	80	81	92
介護支援連携指導件数	80	54	49	51	57	84

(7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療 提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
病院	6	31	36	51	64	42
診療所	1	6	12	14	12	13
高齢者施設		3	3			3
保健所		5	4	3		
大学、学校		1	1		2	1
その他		8	2	8		5
計	7	54	58	76	78	64

^{※25}年度は10月から

(8) 指導・相談

1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

服薬・栄養指導件数

(件)

						XI I
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
服薬指導	545	702	642	247	451	409
栄養指導	381	527	554	621	595	615

(9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

また、糖尿病教室を開催し、地域の方々の健康づくりに取り組んでいる。

開催日	参加者数	講 演 内 容	
00 10 00	10 Å	糖尿病教室	
30. 10. 20	12人	「気になっている事を聞いてみよう!	Part 2]

(10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し(平成16年10月~)、 難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

相談件数

(件)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
電話相談		955	799	561	722	609	492
面接相談		199	146	150	250	177	112
メール相談		165	114	72	102	58	41
合	計	1, 319	1, 059	783	1,074	844	645

交流会、研修会の開催

定例患者交流会等(平成25年度 29回、平成26年度 29回、

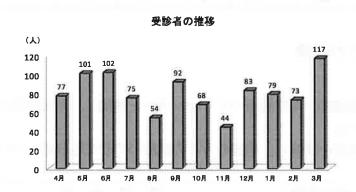
平成27年度 30回、平成28年度 31回、

平成29年度 30回、平成30年度 30回)

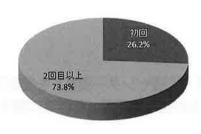
6 南部健康づくりセンター

(1) 健康增進部門

- 1. ヘルスチェックの状況
- 1) 受診者の推移 ヘルスチェック受診者は年間 965 人、1ヵ月平均 80 人であった。



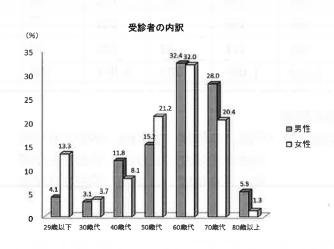
ヘルスチェックの受診回数は、初回が26.2%、2回目以上が73.8%であった。



ヘルスチェック受診回数

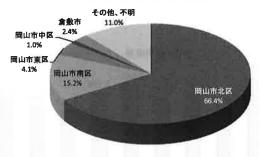
2) 受診者の内訳

ヘルスチェック受診者の内訳を性別でみると男性が 43.3%、女性が 56.7%であった。 年代別でみると男性、女性ともに 60 歳代が最も多かった。



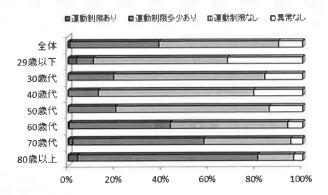
ヘルスチェック受診者の居住地域を市町村別にみると、全受診者のうち 86.7%が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。

受診者の居住地域(市町村別)



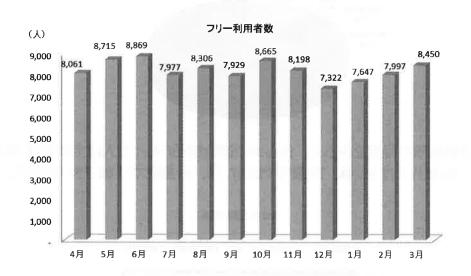
運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では 38.5%であったが、60歳代では 43.4%、70歳代では 57.7%、80歳代では 80.7%であった。

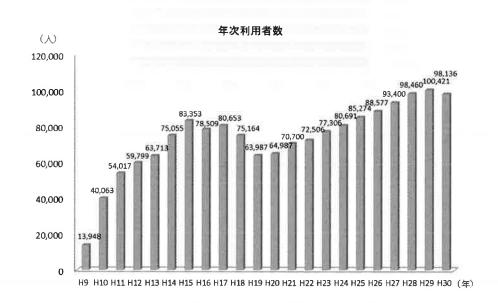
受診者の運動制限



2. 施設自由 (フリー) 利用状況

施設フリー利用者数は年間 98,136 人、1 ヶ月平均 8,178 人、1 日平均 325 人であった。





3. お手軽教室

1) 教室内容

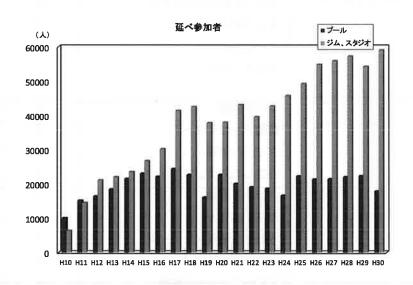
平成30年度は、計78教室を開講した。 週あたりのお手軽教室開講数(平成31年3月現在)

	Mary schools 40 000	
	超初級	1
	超初級・初級(クロール)	2
	初級(週の泳法)	3
	初級・中級(週の泳法)	4
	初級・中級(クロール)	1
	中級(週の泳法)	1
水泳	中上級(インターバル)	2
	レッツ四泳法中級	1
	ステップアップ四泳法中上級	1
	上級 (週の泳法)	1
	上級(四泳法)	1
	スキルアップ四泳法上級	1
	基本の水中運動	1
	膝腰スッキリ水中運動	1
水中運動	アクアサーキット	1
	アクアビクス	2
	エンジョイアクア	1
	初心者エアロ	1
	シンプルエアロ	1
	かんたんエアロ	2
	やさしいエアロ	2
エアロビックダンス	ちょっとがんばるエアロ	3
	オリジナルエアロ	3
	なかなかエアロ	2
	ダンスエアロ	1
	ラジオ体操	1
	膝腰スッキリマット	2
	ダンベル体操	1
	ひきしめステップ	1
	スッキリ体操	1
ジム	おまかせマット	1
	すわって健脚ストレッチ	1
	すわって健脚体操	2
	すわってスッキリ体操	1
	すわってルンルンビクス	1
	しつかり元気健脚	1

	やさしいステップ	1
	エンジョイステップ	1
	すっきりストレッチ	1
	ひきしめボディ	2
	ひきしめサーキット	1
	レッツジョギング	1
	はじめての太極拳	1
太極拳	太極拳	1
© 68±°7	太極養生体操	1
	ストレッチポール	2
	マットオリジナル	1
	ストレッチョガ	2
	オリジナルヨガ	1
	リフレッシュヨガ	1
	パワーヨガ	1
その他	シェイプヨガ	1
	バレトン or ポル・ド・ブラ	1
	オリジナルヨガ or ピラティス	1
	ピラティス	1
	エンジョイフラ	2
	アルティメットボクシング	1

2)参加者の推移

今年度のお手軽教室の延べ参加者数は、77,010 人であった。プール教室の延べ参加者数は17,914人と、全体の約2割であった。



4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

調理実習と健康に関する講話により、正しい情報の提供と健康に関する知識の普及を行いながら食生活の改善を図るとともに、旬の食材の良さや季節の料理を伝える場として健康づくり栄養講座と初心者のための栄養講座を開催した。また、パンやお菓子作りの技術や目新しいおもてなしメニューを学ぶ場として外部講師による料理教室を開催した。

健康づくり栄養講座は、全 12 回の開催で延べ 151 名の参加者、初心者のための栄養 講座は、全 12 回の開催で延べ 100 名の参加者があった。外部講師による料理教室は、 全 9 回の開催で延べ 148 人の参加があった。

1) 健康づくり栄養講座

前期

開催日	テーマ	講話内容	参加人数(合計)
平成30年4月18日	# 0.102 may 16/100	ロコモティブシンドロームについて	16
平成30年4月20日	春のおもてなし料理	ロコモノイノシントロームについて	12
平成30年6月20日	Manage and the state of the sta	時間栄養学について	14
平成30年6月22日	簡単ヘルシー中華料理		11
平成30年8月8日	年8月8日	13	
平成30年8月10日	ヘルシーイタリアン	オリーブオイルの効能	7

後期

開催日	テーマ	講話内容	参加人数(合計)
平成30年10月17日			
平成30年10月19日	簡単つくり置きおかず	便秘症について	8
平成30年12月12日	and Property II. To Publish and American	FELDIC TRE (I. T. PH.) P. O. 1. 1. 1.	15
平成30年12月14日	おせち料理	動脈硬化予防について	17
平成31年2月13日	成31年2月13日	12	
平成31年2月15日	お手軽パスタ料理	栄養成分表示を活用しよう	11

2) 初心者のための栄養講座 【前期】

開催日	テーマ	参加人数(合計)
平成30年5月16日	松林小柳川園	4
平成30年5月19日	豚肉の柳川風	8
平成30年7月18日	株 所 で 7 点	4
平成30年7月21日	簡単ピザ	9
平成30年9月12日	いわしの煮付け	9
平成30年9月15日		6

【後期】

開催日	テーマ	参加人数(合計)
平成30年11月14日	tr. makil	11
平成30年11月17日	キーマカレー	7
平成31年1月23日	~ W~~~	5
平成31年1月26日	エビマヨ	14
平成31年3月16日	簡単ばら寿司	14
平成31年3月20日		9

3)外部講師料理教室 【第1回】

開催日	テーマ	内容	参加人数(合計)
平成30年5月25日	小野靖子先生の おしゃれに楽しくパン教室	【オレンジで元気の出る食卓を】オレン ジのパン、オレンジのシフォンケーキ、 柑橘のジャム、トマトクリームスープ	16
平成30年6月29日		【さわやかに梅雨を乗り切る!】ベーグ ル、レモンカード、アヒージョ、玉ねぎド レッシングサラダ	17
平成30年7月27日		【食卓が楽しくなる夏のイタリアン】ハーブのフォカッチャ、チキンのバルサミコ煮、豆のフリッタータ、ティラミス	16

【第2回】

開催日	テーマ	内容	参加人数(合計)
平成30年9月28日		【月を愛でる女子会〜アジアンな夜〜】 炊飯器で作る海南風・鶏肉ライス、手作り生姜酢(瓶ごと持ち帰り)、豆腐と 春雨のエスニック風サラダ、ベトナム風 コーヒーゼリー	15
平成30年10月26日	小野靖子先生の おしゃれに美味しい料理教室	【天然酵母パンを焼こう】イチジクとクルミのパン、天然酵母(瓶ごと持ち帰り)、 ごぼうとじゃがいものポタージュ、枝豆 汁粉	15
平成30年11月30日		【人の集まるテーブル】パエリア風炊き込みご飯、鶏肉のパイ包み、温野菜+ディップソース、ラムレーズン入りバターケーキ	19

【第3回】

開催日	テーマ	内容	参加人数(合計)
平成31年1月25日		【作ってあげたいバレンタインメニュー】 バターチキンカレー、サラダ、プリスボー ル	16
平成31年2月22日	小野靖子先生の料理教室	【ひな祭り女子会】菜の花と桜えびのパスタ、春野菜たっぷりサラダ(手作りドレッシング)、苺とキウイのジュース	15
平成31年3月22日		【卒業・入学祝メニュー「おめでとう」の 思いを込めて】海老チリ、中華おこわ、 鯛の蒸し物、プリン	19

5. リラクセーションセミナー

セミナーの内容

アロマテラピーのテーマでは 3 回、リンパマッサージのテーマでは外部講師を招き 6 回、計 9 回実施した。各セミナーとも 90 分間で、テーマに沿った講話やリラクセーション実技を行った。延べ 47 名の参加があり、女性の参加が多く、年齢は 20 歳代~70 歳代と幅広かった。

「アロマテラピー」

日時	テーマ	参加者数
平成30年6月15日	基礎から学ぶアロマテラピー ~リフレッシュに役立つアロマスプレー作り~	4
平成31年1月26日	髪と心をいたわる アロマヘアオイル	4
平成31年3月9日	香りでぐっすり睡眠空間をつくる アロマサシュ作り	4

「リンパマッサージ」

日時	デーマ	参加者数
平成30年5月11日	基礎から学ぶリンパマッサージ	10
平成30年7月13日	リンパマッサージ ~足のむくみ対策~	7
平成30年9月21日	リンパマッサージ ~すっきり小顔~	7
平成30年10月12日	心と身体をケアするハンドマッサージ	4
平成30年12月7日	ヘッドスパで美髪&リフトアップ	3
平成31年2月8日	心身のリフレッシュに役立つマッサージ習慣	4

6. 健康增進指導体験

年間の利用件数は2件、利用者数は50名であった。

開催日	参加団体名	コース	参加人数
平成31年2月12日 (火)	吉備中央町愛育委員会	運動	17
平成31年2月16日(土)	落合町愛育委員会	運動	15

(2) 教育·研修部門

1. 派遣事業

年間を通して63件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	会名•講座名	人数	派遣者
_	㈱クラレ倉敷事業所	ウォーキング体験講座(打ち合わせ)	3	森下 明恵
$\overline{}$	岡山県厚生農業協同組合連合会	健脚ストレッチ教室・健脚体操教室	4	高橋 卓也
5/10	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会栄養講座	5	国橋 由美子
5/12	株式会社 西工務店	安全大会 気持ちよく 仕事をしよう ~アサーションのすすめ~	40	後藤 礼子
5/24	中国電力㈱岡山支社	年代別健康づくり教育	52	髙橋 卓也
5/25	(一社)岡山市老人クラブ連合会	平成30年度定時総会 健康づくり講演会	300	斉藤 剛
5/31	㈱クラレ倉敷事業所	ウォーキング体験講座	200	森下 明恵
6/7	㈱クラレ倉敷事業所	ウォーキング体験講座	200	森下 明恵
6/14	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 のびのびストレッチ	7	髙橋 卓也
6/14	㈱クラレ倉敷事業所	ウォーキング体験講座	50	森下 明惠
7/6	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる! かんたん体操	60	森下 明惠
7/23	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる! かんたん体操	160	森下 明惠
7/27	特別擁護老人ホーム 喜福園	職員研修 腰痛予防体操の講座	35	髙幡 卓也
8/1	(公財)和気町シルバー人材センター	シルバー活動&安全就業講習会 体前屈測定・開眼片足立ち測定・立ち上がり測定・移動能力測定	30	高橋 卓也 国橋 由美子 渡邊 明美
8/8	電源開発㈱	THP事業運動指導	20	高槻 祐子
8/9	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会 栄養講座	5	豊田 加奈子
8/30	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる!かんたん体操	70	森下 明恵
-	公立学校共済組合岡山支部	職場の健康づくり研修会支援事業 腰痛予防研修会	25	高橋 卓也
-	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる! かんたん体操	80	森下 明恵
-	(一財)航空機安全運航支援センター	リフレッシュ研修 いきいきと健康に働き続けるために	5	後藤 礼子
-	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる! かんたん体操	100	森下 明恵
	㈱クラレ	ウォーキングコンテスト	300	森下 明恵
	㈱クラレ	ウォーキングコンテスト	50	森下 明恵
$\overline{}$	地方職員共済組合岡山県支部	健康教室	10	斉藤 剛
10/10	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	健康講話「セルフコンディショ ニング」 ~ストレッチポールを使った体幹トレーニングで本来の正しい姿勢を体感!~	20	高槻 祐子
	岡山県難病相談・支援センター	患者交流会のびのびストレッチ	7	髙橋 卓也
	ピンクリボン岡山 県民公開講座	ピンクリボン岡山事業 乳がんと食事	200	豊田 加奈子
	放課後児童クラブ「五月クラブ」父母会	「走り方のコツ、体づくり」	70	森下 明恵 川上 和真
10/14	㈱エスアールティー	健康診断結果の見方	30	後藤 礼子
10/19	地方職員共済組合岡山県支部	健康教室	15	斉藤 剛
	赤磐市役所健康増進課	糖尿病予防健康教室	20	国艦 由美子
10/26	地方職員共済組合岡山県支部	健康教室	15	斉藤 剛
	㈱エスアールティー	健康診断結果の見方	30	- C
	(公財)岡山県老人クラブ連合会	「平成30年度 高齢者地域リーダー研修会」いつでもできる! かんたん体操	80	206 1 21/12/
	岡山県立西支援学校	肥満予防対策の運動教室	19	701 77721
11/2	地方職員共済組合岡山県支部	健康教室	20	21,000, 222
11/4	㈱エスアールティー	健康診断結果の見方	30	D4116- 10-1
_	真庭市愛育委員会勝山支部	健康教室休養コース	40	BCMR TG 1
	岡山県立西支援学校	肥満予防対策の運動教室	19	75K 1 717EK
11/13	岡山県工業技術センター	「体幹を鍛える!ストレッチ講座」	20	高槻 祐子
11/20	矢掛町シルバー人材センター	平成30年度矢掛町シルバー人材センター会員互助会総会 「肩・腰・ひざ 体スッキリ体操」	100	斉藤 剛
11/23	(公社)岡山県医師会	産業医研修会「健康づくりのための栄養指導」	200	豊田 加奈子
		健康アップセミナー	20	
11/28	(株)日立製作所 中国支社	□体力測定 □毎日無理なく できる、体脂肪を減らすエクササイズ(運動実践あり)		森下 明惠
11/28		□体力測定 □毎日無理なくできる、体脂肪を減らすエクササイズ(運動実践あり) 美廿シルバー大学「簡単な健康づくり体操」	20	森下 明恵

実施日	実施元	会名•講座名	人数	派遣者
12/6	警察共済組合岡山支部	ヘルスアップセミナー 20~30歳代の新婚向け	40	国橋 由美子
12/7	警察共済組合岡山支部	ヘルスアップセミナー 20~30歳代の新婚向け	40	国橋 由美子
12/11	警察共済組合岡山支部	ヘルスアップセミナー 女性職員向け	40	関 明穂 豊田 加奈子 高槻 祐子
12/13	警察共済組合岡山支部	ヘルスアップセミナー 30歳以上の職員向け	30	豊田 加奈子 高橋 卓也
12/20	警察共済組合岡山支部	ヘルスアップセミナー30歳以上の職員向け	30	豊田 加奈子 高橋 卓也
12/21	地方職員共済組合岡山県支部	健康管理セミナー ストレス対策及びリラックス講座	30	後藤 礼子
1/11	(独)高齡・障害・求職者雇用支援機構	メンタルヘルスに関する講習	40	後藤 礼子
1/17	㈱岡山和気ヤクルト工場	体力測定	68	高橋 卓也
1/22	備前市保健課變康係	講話・運動指導「内臓脂肪撃退!効果的な有酸素運動」	15	
1/24	備前市吉永地区老人クラブ連合会	健康体操講習会	40	高橋 卓也
1/25	㈱岡山和気ヤクルト工場	体力測定	65	高橋 卓也
2/5	(株)三井E&Sビジネスサービス	健康セミナー 体力測定、食事の講話、運動の講話、運動実践等	50	国橋 由美子 高槻 祐子
2/6	(株)三井E&Sビジネスサービス	健康セミナー 体力測定、食事の講話、運動の講話、運動実践等	50	国橋 由美子高槻 祐子
2/21	(株)三井E&Sビジネスサービス	健康セミナー 体力測定、食事の講話、運動の講話、運動実践等	50	国橋 由美子 高槻 祐子
2/22	地方職員共済組合岡山県支部	健康教室	30	斉藤 剛
2/26	備前市保健課健康係	講話・運動指導「代謝アップでさらに脂肪燃焼!筋肉を育てよう」	15	高槻 祐子
2/28	(株)三井E&Sビジネスサービス	健康セミナー 体力測定、食事の講話、運動の講話、運動実践等	50	国橋 由美子 高槻 祐子
3/14	㈱クラレ	2019年度健康づくり事業に対する打ち合わせ	2	森下 明恵

2. 図書の貸し出し

健康に関する図書が閲覧できる。

平成 30 年度で貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1 年間で 186 名、253 冊の利用があった。

3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

- 1) 大会議室 貸し出し件数は、年間25件であった。
- 2) 小会議室 貸し出し件数は、年間41件であった。
- 3) 栄養指導室 貸し出し件数は、年間4件であった。
- 4) 多目的聴講室 貸し出し件数は、年間16件であった。
- 4. 研究室の開放 貸し出し件数は、年間2件であった。

(3)調査・研究部門

- 1. 業績
 - 1) 学会発表
 - ア 岡山県南部健康づくりセンターにおける「ダイエットカウンセリング」の試み 国橋由美子、関明穂、豊田加奈子、後藤礼子、森下明恵(第 25 回岡山県保健 福祉学会、2019 年 1 月 21 日、岡山県)
 - イ 知的障害児・発達障害児の肥満予防対策としての運動プログラム開発について 森下明恵、国橋由美子、関明穂、伊藤武彦、鈴木久雄(第 25 回岡山県保健福 祉学会、2019年1月21日、岡山県)
 - ウ 日本人女性の血糖管理指標に及ぼす出生体重と運動習慣の影響 青山友子、宮武伸行、関明穂、發坂耕治、滝本秀美、田中茂穂(第7回日本 DOHaD 学会学術集会、2018 年8月17日、東京都)

2) 講演

- ア 子どもたちの多様な性のありかたに向き合うために 関明穂 (平成 30 年度岡山県中学校養護教諭夏季研修会、2018 年 7 月 26 日、 ピュアリティまきび、岡山市)
- イ 性同一性障害・性別違和などへの対応について 関明穂(広島市公立中学校教頭会、2019 年 2 月 12 日、広島市教育センター、 広島市)

3)雑誌掲載

- ア 「LGBT」の最新事情 知識とルール 基礎知識 Q&A 前編 関明穂(健 p. 10-26、47 巻 (8 月号)、2018)
- イ 「LGBT」の最新事情 知識とルール 基礎知識 Q&A 後編 関明穂 (健 p. 46-54、47 巻 (9 月号)、2018)

(4) スポーツ医科学部門

1. 受診者数及びその内訳 興譲館高校(女子陸上部長距離)の10名が筋力測定を、また、1名が運動負荷試験を受けた

(5) 健康診断(人間ドック)部門

1. 人間ドック

1) 受診者の内訳

年間で9,997件(男性6,044人、女性3,903人、計9,947人)の受診があり、前年度比107.5%の受診者数となった。

2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「治療中」とした。それ以外のもののうち、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のものの割合を算出した。

① 肥満度

BMI18.5 未満を低体重、18.5 以上25.0 未満を普通体重、25.0 以上30.0 未満を肥満1度、30.0 以上35.0 未満を肥満2度、35.0 以上40.0 未満を肥満3度、40.0 以上を肥満4度とした。

肥満1度以上のものは男性2,181人(36.3%)、女性679人(21.2%)であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	肥満4度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性(人)	6003	167	3655	1790	311	68	12
		(2.8 %)	(60.9 %)	(29.8 %)	(52%)	(1.1 %)	(0.2 %)
女性(人)	3201	364	2158	520	127	25	7
		(11.4%)	(67.4%)	(162 %)	(4.0 %)	(0.8 %)	(0.2 %)

② 加圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「治療中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の1,680人(28.0%)、女性の460人(14.4%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性1,120人(18.7%)、女性285人(8.9%)、「要医療」のものは男性122人(2.0%)、女性32人(1.0%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5993	3801	515	438	0	122	1120
		(63.4 %)	(8.5 %)	(7.3 %)	(0.0 %)	(2.0 %)	(18.7 %)
女性(人)	3195	2569	166	143	0	32	285
		(80.4 %)	(5.2 %)	(4.5 %)	(0.0 %)	(1.0 %)	(8.9 %)

③ 心電図

男性の 555 人 (9.3 %)、女性の 133 人 (4.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 176 人 (2.9 %)、女性 35 人 (1.1 %)、「要医療」のものは男性 50 人 (0.8 %)、女性 10 人 (0.3 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5976	4487	934	329	48	2	176
		(75.1 %)	(15.6 %)	(5.5 %)	(0.8 %)	(0.0 %)	(2.9 %)
女性(人)	3184	2620	431	88	10	0	35
		(82.3 %)	(13.5 %)	(2.8 %)	(0.3 %)	(0.0 %)	(1.1%)

④ 検尿

男性の1,019人(17.0%)、女性の991人(31.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性82人(1.4%)、女性31人(1.0%)、「要医療」のものは男性103人(1.7%)、女性34人(1.1%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5977	4043	915	834	103	0	82
		(67.6 %)	(15.3 %)	(14.0 %)	(1.7 %)	(0.0 %)	(1.4 %)
女性(人)	3184	1377	816	926	34	0	31
		(432%)	(25.6 %)	(29.1 %)	(1.1 %)	(0.0 %)	(1.0 %)

⑤ 肝機能

男性の 1,757 人 (29.4 %)、女性の 370 人 (11.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 270 人 (4.5 %)、女性 51 人 (1.6 %)、「要医療」のものは男性 546 人 (9.1 %)、女性 111 人 (3.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5976	2585	1634	941	542	4	270
		(43.3 %)	(27.3 %)	(15.7 %)	(9.1 %)	(0.1 %)	(4.5 %)
女性(人)	3184	2161	653	208	111	0	51
		(67.9 %)	(20.5 %)	(6.5 %)	(3.5 %)	(0.0 %)	(1.6 %)

⑥ 脂質異常症

男性の3,533人(59.1%)、女性の1,483人(46.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性976人(16.3%)、女性370人(11.6%)、「要医療」のものは男性494人(8.3%)、女性206人(6.5%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5980	1117	1330	2063	1	493	976
- 1		(18.7%)	(22.2 %)	(34.5 %)	(0.0 %)	(82%)	(16.3 %)
女性(人)	3189	913	793	907	0	206	370
		(28.6 %)	(24.9 %)	(28.4%)	(0.0 %)	(6.5 %)	(11.6 %)

⑦ 耐糖能異常

男性の 1,358 人 (22.7 %)、女性の 305 人 (9.6 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 551 人 (9.2 %)、女性 81 人 (2.5 %)、「要医療」のものは男性 176 人 (2.9 %)、女性 39 人 (1.2 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5981	2709	1914	631	97	79	551
		(45.3 %)	(32.0 %)	(10.6 %)	(1.6 %)	(1.3 %)	(92%)
女性(人)	3189	2065	819	185	21	18	81
		(64.8 %)	(25.7 %)	(5.8 %)	(0.7 %)	(0.6 %)	(2.5 %)

8 尿酸

男性の1,834人(30.9%)、女性の69人(2.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性555人(9.4%)、女性7人(0.2%)、「要医療」のものは男性90人(1.5%)、女性3人(0.1%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5928	4085	9	1189	0	90	555
		(68.9 %)	(02%)	(20.1 %)	(0.0 %)	(1.5 %)	(9.4 %)
女性(人)	3155	3080	6	59	0	3	7
		(97.6 %)	(02%)	(1.9 %)	(0.0 %)	(0.1 %)	(0.2 %)

⑨ 血液一般

男性の945人(15.8%)、女性の603人(18.9%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性28人(0.5%)、女性61人(1.9%)、「要医療」のものは男性228人(3.8%)、女性192人(6.0%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5976	3190	1841	689	223	5	28
		(53.4 %)	(30.8 %)	(11.5%)	(3.8 %)	(0.1 %)	(0.5 %)
女性(人)	3184	1610	971	350	150	42	61
DIAM.	10.00	(50.6 %)	(30.5 %)	(13.3 %)	(4.7 %)	(1.3 %)	(1.9 %)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。

男性の1,870人(56.6%)、女性の679人(40.3%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性11人(0.3%)、女性8人(0.5%)、「要医療」のものは男性55人(1.7%)、女性16人(0.9%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	3301	773	658	1804	55	0	11
		(23.4 %)	(19.9 %)	(54.7 %)	(1.7 %)	(0.0 %)	(0.3 %)
女性(人)	1686	653	354	655	16	0	8
		(38.7 %)	(21.0 %)	(38.8%)	(0.9 %)	(0.0 %)	(0.5 %)

① 胸部 X 線検査

CR装置による直接撮影を行った。

男性の 370 人 (6.2 %)、女性の 100 人 (3.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 50 人 (0.8 %)、女性 26 人 (0.8 %)、「要医療」のものは男性 160 人 (2.7 %)、女性 46 人 (1.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5968	4808	790	160	158	2	50
		(80.6 %)	(132 %)	(2.7 %)	(2.6 %)	(0.0 %)	(0.8 %)
女性(人)	3145	2728	317	28	46	0	26
		(86.7 %)	(10.1 %)	(0.9 %)	(1.5 %)	(0.0 %)	(0.8 %)

12 胃部造影検査

DR 装置による直接撮影を行った。

男性の1,974 人 (35.8 %)、女性の706 人 (26.2 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性11 人 (0.2 %)、女性3 人 (0.1 %)、「要医療」のものは男性131 人 (2.4 %)、女性41 人 (1.5 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5520	2576	970	1832	128	13	11
		(46.7 %)	(17.6 %)	(332 %)	(2.3 %)	(0.1 %)	(02%)
女性(人)	2699	1085	908	663	41	0	2
		(40.2 %)	(33.6 %)	(24.6 %)	(1.5 %)	(0.0 %)	(0.1 %)

① 骨密度検査

DXA 法により第2~第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の 11 人 (40.7 %)、女性の 187 人 (66.1 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 0 人 (0.0 %)、女性 32 人 (11.3 %)、「要医療」のものは男性 2 人 (7.4 %)、女性 21 人 (7.4 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	27	16	0	9	2	0	0
		(59.3 %)	(0.0 %)	(33.3 %)	(7.4 %)	(0.0 %)	(0.0 %)
女性(人)	283	96	0	134	21	0	32
		(33.9 %)	(0.0 %)	(47.3 %)	(7.4 %)	(0.0 %)	(11.3 %)

3) 婦人科検診

① 乳がん検診

乳がん検診として、視触診とマンモグラフィ、乳房超音波検査とを行った。 乳がん検診の総受診者数は 2,589 人であり、そのうち、マンモグラフィ受診者は 1,791 人であった。乳がん検診受診者の 213 人 (8.2%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 23 人 (0.9%)、「要医療」のものは 116 人 (4.5%) であった。マンモグラフィも実施したものに限ると、99 人 (5.5%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 4人 (0.2%)、「要医療」のものは 93 人 (5.2%) であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2589	764 (29.5 %)	1612 (62.3 %)	74 (2.9 %)	116 (4.5%)	0 (0.0 %)	23 (0.9 %)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1791	493	1199	2	93	0	4
1.00		(27.5 %)	(66.9 %)	(0.1 %)	(52%)	(0.0 %)	(0.2 %)

② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膣超音波検査を行った。子宮 頸部細胞診では class I、II を正常とし、class IIIa 以上を「要精検」とした。

子宮がん検診の受診者数は2,289人であった。

受診者の 388 人 (17.0 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 31 人 (1.4 %)、「要医療」のものは 193 人 (8.4 %) であった。また、子宮頸部細胞診で classIIIa 以上の「要精検」であったものは 62 人 (2.7 %) であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2289	1899	2	164	154	39	31
		(83.0 %)	(0.1 %)	(72%)	(6.7%)	(1.7 %)	(1.4. %
細胞診	受診者数	class I	class II	class IIIa	class IIIb	class IV	class V
女性(人)	2289	0	2227	52	9	1	0
		(0.0 %)	(97.3 %)	(2.3 %)	(0.4 %)	(0.0 %)	(0.0 %

2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は349人(男性232人、女性117人)であった。

男性の 28 人 (12.1 %)、女性の 15 人 (12.8 %) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 0 人 (0.0 %)、女性 0 人 (0.0 %)、「要医療」のものは男性 11 人 (4.7 %)、女性 8 人 (6.8 %) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	232	105	99	17	11	0	0
		(45.3 %)	(42.7 %)	(7.3 %)	(4.7 %)	(0.0 %)	(0.0 %)
女性(人)	117	61	41	7	8	0	0
		(52.1 %)	(35.0 %)	(6.0 %)	(6.8 %)	(0.0 %)	(0.0 %)

3. らせん CT 胸部検診

らせん CT 胸部検診は、肺がんの早期発見に威力を発揮することが注目されて普及し、着実に受診者に浸透しつつある。今後も慢性閉塞性肺疾患 (COPD) などの呼吸器疾患の早期発見や、禁煙への動機づけにも有効であるため、普及啓発に今後とも力を注いでいくことが重要とされている。

らせんCT 胸部検診の受診者数は310人(男性273人、女性37人)であった。

男性の66人(24.2%)、女性の9人(24.3%)が「要観察以上」であり、「要医療」のものは男性26人(9.5%)女性4人(10.8%)であった。「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性0人(0.0%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	273	23	184	37	26	0	3
		(8.4 %)	(67.4 %)	(13.6 %)	(9.5 %)	(0.0 %)	(1.1 %)
女性(人)	37	3	25	4	4	0	1
		(8.1 %)	(67.6 %)	(10.8 %)	(10.8 %)	(0.0 %)	(2.7 %)

(6) 健康診断(施設健診)部門

平成 30 年 4 月より附属病院の健康診断部門を引き継ぎ、事業所法定健診・特殊健診・特 定健診・後期高齢者健診・岡山市がん検診等を実施している。

1. 健診種別件数

(X)

事業所健診 (一般定期)	事業所健診 (特 殊)	個人健診 雇入れ健診	岡山市がん検診 (胃・大腸・肺)	特定健診	後期高齢者健診
3112	165	226	1051	644	27

2. 岡山市がん検診要精密検査数

(N)

種別	受診者数	要精検者数
胃がん(胃 XP 検査)	88	4
胃がん(胃内視鏡)	37	2
肺がん	625	23
大腸がん	301	21

3. 特定健診保健指導対象者数

(N)

健康保険組合名	実施者数	動機づけ支援	積極的支援
岡山市国民健康保険組合	441	10	32
全国健康保険協会(協会けんぽ)	139	12	5
日本私立学校振興・共済事業団	64	1	0

7 普及啓発事業

(1) 財団の広報

ホームページの更新、広報誌の発行、他団体広報誌へ記事の提供等を通して、財団の 広報に努めた。

1) 広報誌の発行

広報誌「健康と環境」を年3回発行し、事業の紹介と県民の健康づくり、環境保全に関する意識の高揚を図った。

- 発行部数 第74号 5,000部 (4月20日発行)
 第75号 5,000部 (8月20日発行)
 第76号 5,000部 (12月20日発行)
- 主要配布先 県、市町村、教育委員会、学校、警察署、保健所、近隣町内会、 医師会、病院協会、福祉施設、事業所等

2) ホームページ更新

財団ホームページに、財団の事業紹介、健康情報・生活環境に関する情報提供、セミナーや教室の案内、各種行事の予定等を随時更新し、紹介した。

(2) 結核予防に関する事業

結核は、60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、 薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間約200名の患者 が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動 (8月1日~12月31日) について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、 積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間(9月24日~30日) を中心に結核予防に関するポスター(3,000部)等の広報資材を、保健所、市町村、病 院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

期間中の大規模な街頭活動として、9月22日 JR 岡山駅地下道ももたろう観光センター 前広場において、県や市、岡山県愛育委員連合会、岡山県診療放射線技師会と共催で街 頭キャンペーンを行った。このキャンペーンでは、結核撲滅の呼びかけを行うとともに、 チラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材(4,000組)を活用し募金を呼びかけた。

- 募金額 2,171,993円 (平成31年3月31日現在)
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

2) 知事表敬訪問

例年、全国一斉複十字シール運動開始にあたり、理事長が岡山県愛育委員連合会長と ともに、知事を表敬訪問し運動への理解と協力を要請しているが、平成30年7月豪雨に より、岡山県においても甚大な被害が発生したため、中止することとなった。

(3) がん予防に関する事業

1)「がん征圧岡山県大会」の開催

8月31日、岡山県医師会館三木記念ホールにおいて岡山県、県医師会と共催で、「がん検診 未来の自分に できること」をスローガンに、がん征圧岡山県大会を開催した。約300名の参加を得て、がん予防事業功労者への表彰や研究助成金の贈呈、子宮がんをテーマに講演会を開催し、がん予防に関する啓発活動を行った。

2) キャンペーン放送の実施

がん征圧月間中を中心に、テレビ・ラジオ放送において広報活動を行った。

3) その他の啓発活動

がん征圧月間(9月)に向けて、市町村・病院・大学等へ本部が作成した「がん検診 啓発」および「禁煙」に関するポスターを配布し、がん予防の啓発に努めた。

ピンクリボン運動月間 (10月) を中心に乳がんについての啓発活動を行う「ピンクリボン岡山」の実行委員会に参加し、10月13日には、岡山コンベンションセンターにおいてマンモグラフィ検診車による無料検診 (69名) を実施した。

4)募金

がん予防を推進するために協力を呼びかけ、246件3,089,530円の募金等を頂いた。

(4) 禁煙の普及啓発に関する事業 (岡山県禁煙問題協議会)

1) 街頭キャンペーンの実施

5月31日の世界禁煙デーに、岡山駅、津山駅等で、県・市町村職員、愛育委員、禁煙アドバイザー等の協力を得て街頭活動を行い、啓発チラシ(20,300枚)、ポケットティッシュ(23,650個)を配布し、禁煙を呼びかけた。

2) ポスターコンクールの開催

県下の小学校4年生~6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールの作品を募集した。 13校から96点の応募作品があり、入賞者8名を8月のがん征圧岡山県大会で表彰した。入 賞作品を掲載したカレンダー(2,800枚)を作成し、県、市町村、県警及び県下の学校等 関係機関へ配布した。

3) 岡山県知事訪問

世界禁煙デーを前に、県下各地で実施する街頭活動の意義及び目的を県知事に説明し、協力頂くことを目的として表敬訪問した。

4) 講師の派遣

教育機関、一般企業等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し 禁煙の啓発に努めた。

5) 教材等の貸出

たばこの害についてのチラシの配布や、スモーカライザーを貸し出し、教育機関や一般企業独自の啓発活動を支援した。

6) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に350件321,000円の募金を頂いた。

(5) 助成事業

1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して対がん基金による助成を行った。

- ・骨髄内低酸素環境で効果を発揮する新規抗癌剤の開発研究 川崎医科大学 生化学教室 講師 岡本 秀一郎 氏
- ・間質性肺炎合併肺癌の発癌抑制に関する研究 岡山大学病院 腫瘍センター 助 教 久保 寿夫 氏
- ・BNCTのための小型中性子源の開発 岡山大学大学院 保健学研究科 助 教 花元 克巳 氏

2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会等の関係団体に助成を行った。

(6) 会議等の開催

区 分	開催 年月日	会 場	議題
会計監查 第1回会計監查 第2回会計監查	H30. 4. 23 H30. 5. 24	岡山県南部健康づくりセンター 研修室 1 小会議室	1. 平成29年度決算について
業務監査	H30. 5. 24	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 平成29年度事業実績について 2. 平成29年度決算について
第1回理事会	H30. 6. 12	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団就業 規則の一部改正(案) 2. 平成29年度事業報告 3. 平成29年度決算報告 4. 平成30年度第1回収支補正予算(案) 5. 定時評議委員会の招集(案) 6. 顧問の選任(案)
定時評議員会	Н30. 6. 29	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	 平成29年度決算報告 理事の選任(案) 平成29年度事業報告
臨時理事会 (書面表決)	H30. 6. 29		1. 理事長(代表理事)及び専務理事(業務 執行理事)の選定
第2回理事会	H31. 3. 25	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団就業 規則の一部改正(案) 2. 平成31年度事業実施計画(案) 3. 平成31年度収支計画(案)

平成30年度 事業年報

発 行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団 〒700-0952 岡山市北区平田 408-1 TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258

E-mail: zaidan@okakenko.jp